出来形管理書類作成システム

QuickProject

出来形マネージャ 4.0

クイックプロジェクト 出来形マネージャ 4.0

操作マニュアル

株式会社ワイズ

＊この操作マニュアルでは国土交通省仕様の画面表示を使用しております。各県仕様の場合、表示されている印刷書式が異なることがあります。

ソフトウェア使用許諾契約

使用許諾契約書とマスターディスクは、お客様が適法に使用許諾を受けたことの証となりますので、どちらも大切に保管します。

第 1 条 適用範囲

以下の条項は、お客様が使用許諾契約書とともに入手された株式会社ワイズ（以下[ワイズ]といいます）のソフトウェア（以下[本ソフトウェア]）及び、本ソフトウェアに関するマニュアルその他の関連資料（以下[本マニュアル等]）で構成される本製品に関して適用します。本製品の著作権は本マニュアル等に記載されており、著作権法により保護されています。お客様が以下の条項を遵守することを条件に、お客様の本製品の使用を許諾いたします。

第 2 条 使用権

1. お客様は、本ソフトウェアを、特定の 1 台のコンピュータにインストールして使用することができます。
2. お客様は、バックアップの目的に限り、本製品の複製を一組作成することができます。バックアップの目的で作成した複製は、本製品の修復にのみ使用することができます。
3. お客様は、ネットワークサーバーのような記憶装置に本ソフトウェアをインストールして使用することができます。ただし、かかる記憶装置から本ソフトウェアを実行しているコンピュータ 1 台につき、専用のライセンスを 1 つ取得しなければなりません。

第 3 条 禁止事項

お客様が、以下の行為を行うことを禁止いたします。

1. 本製品及び本製品の複製の、譲渡、販売、転貸。
2. 本ソフトウェアのプログラムコードの改変あるいはリバースエンジニアリング。
3. 本契約に反する本製品の複製及び使用。

第 4 条 支払

1. 本製品が、ワイズが定めるデモ、無償、フリーの種類に属さない場合は、お客様は、本製品の使用にあたりワイズが定めた金額を商品到着後 7 日以内に支払うものとします。ただし、ワイズとお客様との間で別途売買契約を締結している場合はこの限りではありません。
2. 本製品が、デモ・無償・フリーの種類に属するとワイズが定めた場合、お客様は本製品を使用するあたり、金銭支払の義務は生じません。ただし、ワイズが、ユーザー登録等の金銭支払以外の条件を掲示している場合は、お客様はこれを行わなければなりません。

第 5 条 保証の範囲および免責事項

1. 本製品に物理的な欠陥があった場合は、お客様が本製品を購入された日から 90 日以内に限り、無料で欠陥のない商品と交換いたします。
2. 法律上の請求の原因の種類を問わず、いかなる場合においても、ワイズは、本製品の使用または使用不能から生ずる本契約に既定されていない、いかなる他の損害に関して、一切責任を負わないものとします。たとえそれがワイズが損害の可能性について知らされていた場合でも同様です。いかなる場合においても、本契約に基づくワイズの責任は、本製品についてお客様が実際に支払った金額を上限とします。
3. お客様が、本製品の正規ユーザーとしての登録をされた場合に限り、お客様が本製品を購入してから 1 年以内にワイズが本ソフトウェアの誤り（バグ）を修正したときには、修正したソフトウェアまたはそれに関する情報をお客様に提供いたします。但し、修正したソフトウェアまたはそれに関する情報を提供することの要否・時期についてはワイズにて定めさせていただきます。
4. 本製品が機能限定又は試用期間が指定されたトライアル（デモ）製品である場合、上記 1. 、3. については適用の対象外となります。ワイズはトライアル（デモ）製品に対して一切の保証及びサポートを行いません。

第 6 条 管轄裁判所

1. 本契約に関する訴訟は、ワイズの所在地を管轄する地方裁判所または簡易裁判所を第一審の管轄裁判所とします。

第 7 条 契約期間

1. 本契約は、お客様が本製品を受領した日から発効します。受領日は証票により確認するものとします。
2. 本契約は、お客様が本製品使用を停止するまで有効です。但し、お客様が、本契約の条項のいずれかに違反した場合、本契約は自動的に終了します。
3. 本契約が終了した場合には、お客様は 10 日以内にお客様のご負担で本製品を返却あるいは破棄していただきます。

Copyright（C）

QuickProject 出来形マネージャ

Copyrightⓒ2003-2011 Wise Corporation.

LEADTOOLS

Copyrightⓒ1991-1998 LEAD Technologies,Inc.

VS-FlexGrid Pro

Copyrightⓒ1999 VideoSoft Corporation.

QuickProject は株式会社ワイズの登録商標です。

Microsoft、Windows は米国 Microsoft Corporation の登録商標です。

その他の製品名と会社名は、それぞれの企業の登録商標または商標です。

＜目次＞

1.はじめに 5
システムの特徴 5
作業の流れ 7
画面の見方 8
基本操作方法 9
2.システムの起動と終了 11
システムを起動する 11
システムを終了する 11
3.メニュー、ツールバー 12
メイン画面のメニュー、ツールバー 12
工事データの保存 13
4.工事データの新規作成・既存のデータを選択する 14
[メニュー(工事選択)]ダイアログの表示 14
新規に工事を作成する 14
既存の工事を開く 15
5.工事の情報を入力する 16
工事情報ダイアログの表示 16
工事件名等 16
発注者/請負者 17
社員 17
測点 18
6.工事ツリーを作成する 20
工事ツリーの基本 20
工種の追加 21
種別の追加 22
細別の追加 23
検測種別の追加 24
フォルダのコピー・貼り付け 25
フォルダの移動 26
工種・種別・細別のマスタ編集 27
7.測点リストを作成する 30
測点リストへ測点の一括追加 30
測点リストの編集 31
測点名の一括変更 33
項目別表示に切り替え 34
8.略図を追加する 35
略図の新規作成 35
略図の編集 35
略図の削除 36
画像貼付 36
構造物集から読み込み 37
外部からの読み込み 38

9.測定データを入力する 39
測定項目編集 39
実測値入力 43
10.印刷(Excel 出力)を行う 44
Excel 出力 44
設定(印刷) 46
出力設定 50
11.PhotoManager データの読み込み 52
連携の必要条件 52
連携の際の注意点 52
PhotoManager からの連携方法 53
出来形マネージャからの連携方法 56
個別に写真を選択し連携する 57
連携の確認 59
連携の解除 60
12.システムの設定を行う 62
オプションダイアログの表示 62
入力に関する設定 62
表示に関する設定 63
測点に関する設定 63
単位に関する設定 64
共有に関する設定 64
13.出来形管理総括表 65
出来形管理総括表の入力 65
印刷(Excel 出力) 68
14.構造物集を管理する 69
構造物集のライセンス認証 69
構造物集の切り替え 69
構造物集の編集画面の表示 70
構造物の管理 70
検測種別の管理 73
測定項目の管理 75
略図の作成、読み込み、編集、削除 76
15.データをチェックする 77
データチェック 77
データチェック設定 78

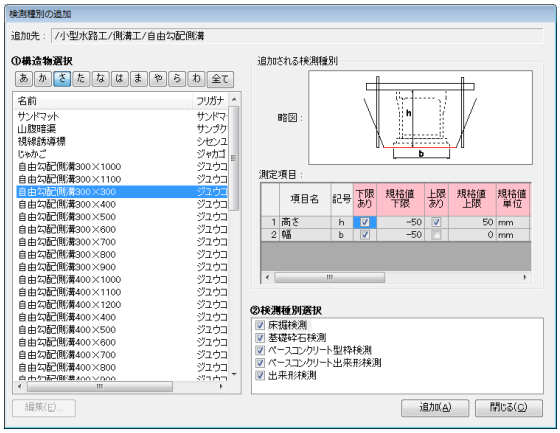
1. はじめに

Quick Project 出来形マネージャは土木工事で測定した実測値、設計値等を入力し、出来形管理図表、測定結果一覧表、測定結果総括表、度数表などの書類を作成するソフトウェアです。

システムの特徴

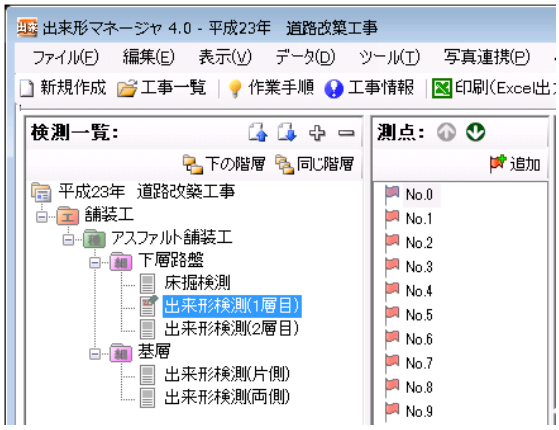
工種名～測定項目、規格値、略図まで登録済み

工種、種別等の名前はもちろん測定項目、規格値、略図が構造物集に登録済みですので、それらを選択し、実測値を入力するだけで出来形管理図表が作成できます。



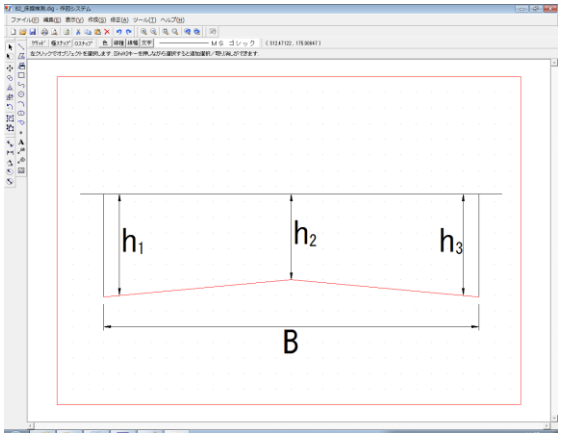
ツリー表示でデータが見やすい

工種、種別等がツリー表示され、作業状況がわかりやすくなっています。



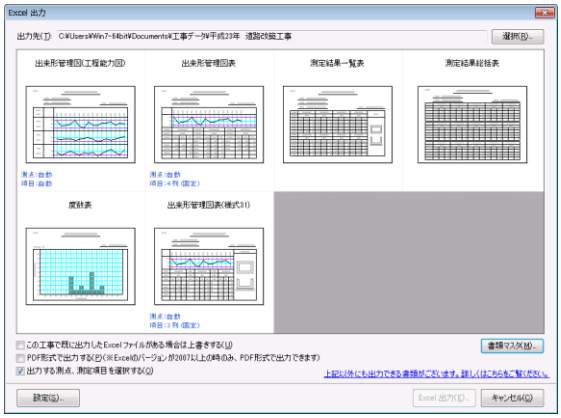
作図システムから略図の作成が可能

作図システムで略図を作成、修正することができます。

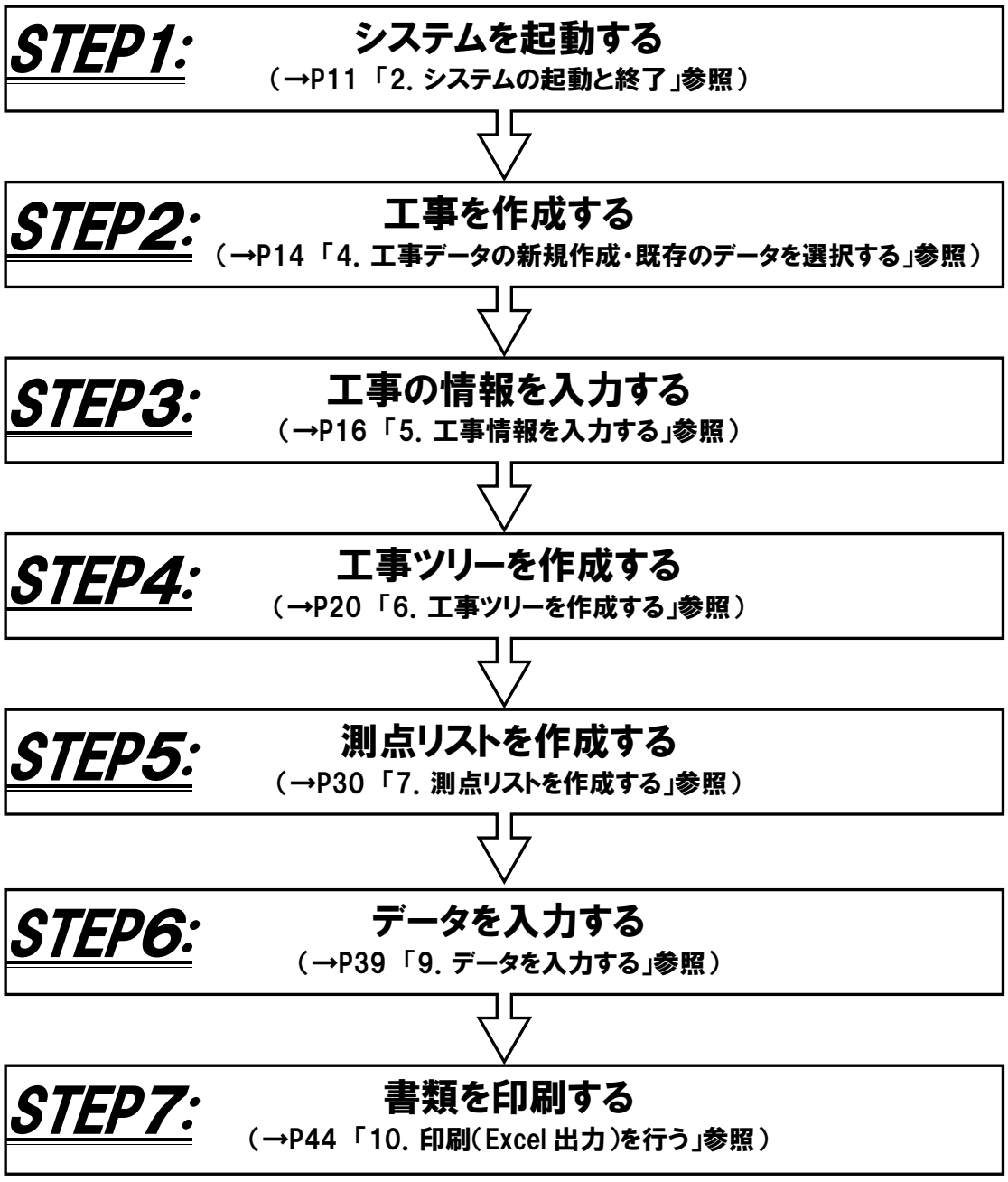


出来形管理図表等の印刷(Excel 出力)機能

出来形管理図(工程能力図)、出来形管理図表、測定結果一覧表、測定結果総括表、度数表をExcelへ出力し、印刷することができます。必要に応じて修正を加えることも可能です。



作業の流れ


STEP1:
システムを起動する
（→P11「2. システムの起動と終了」参照）
STEP2:
工事を作成する
（→P14「4. 工事データの新規作成・既存のデータを選択する」参照）
STEP3:
工事の情報を入力する
（→P16「5. 工事情報を入力する」参照）
STEP4:
工事ツリーを作成する
（→P20「6. 工事ツリーを作成する」参照）
STEP5:
測点リストを作成する
（→P30「7. 測点リストを作成する」参照）
STEP6:
データを入力する
（→P39「9. データを入力する」参照）
STEP7:
書類を印刷する
（→P44「10. 印刷(Excel 出力)を行う」参照）

画面の見方

メイン画面は以下のように大きく4つの部分に分かれています。

工事ツリー

工種・種別・細別・検測種別を追加し、作成します。

（→P20「6. 工事ツリーを作成する」参照）

略図

検測種別の略図が表示されます。作図システムから新規に作成することや、作成済みのファイルを読み込むことも可能です。

（→P35「8. 略図を追加する」参照）

メニュー・ツールバー

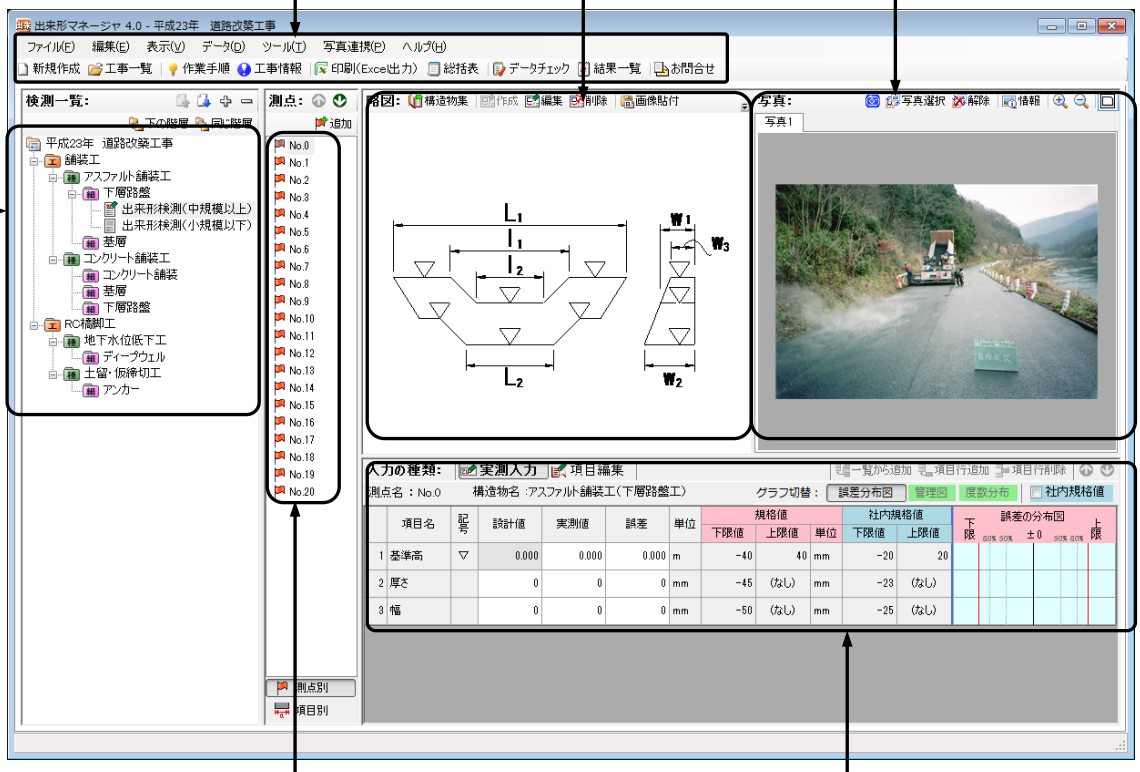
出来形マネージャの作業に必要な各種ボタンです。

（→P12「3. メニュー・ツールバー」参照）

写真

現在連携されている PhotoManager の写真が表示されます。

（→P52「11. PhotoManager データの読み込み」参照）



測点リスト

選択された検測種別に追加されている測点のリストが表示されます。項目別リストに切り替えることも可能です。

（→P30「7. 測点リストを作成する」参照）

データ入力部分

実測値や設計値などの実際のデータを入力します。

（→P39「9. 測定データを入力する」参照）

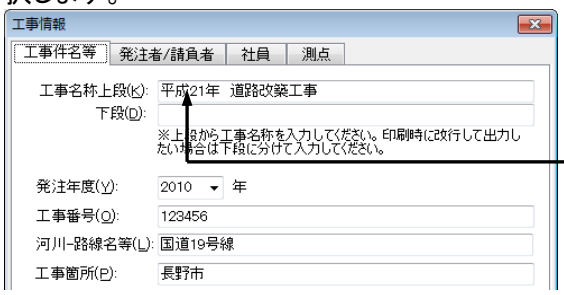
基本操作方法

ここでは、全ての入力作業に共通する基本操作について解説します。操作は Windows の基本操作に基づいています。

データを入力する（入力欄）

①入力欄をクリックします。入力欄にカーソルが点滅します。データを入力します。

②入力欄を移動するには、[Tab]キーを押して次の入力欄に進むか、入力したい欄をマウスクリックで選択します。



[Tab]キーまたはマウスクリックでカーソルを移動し、データを入力します。

データを入力する（表形式の入力欄）

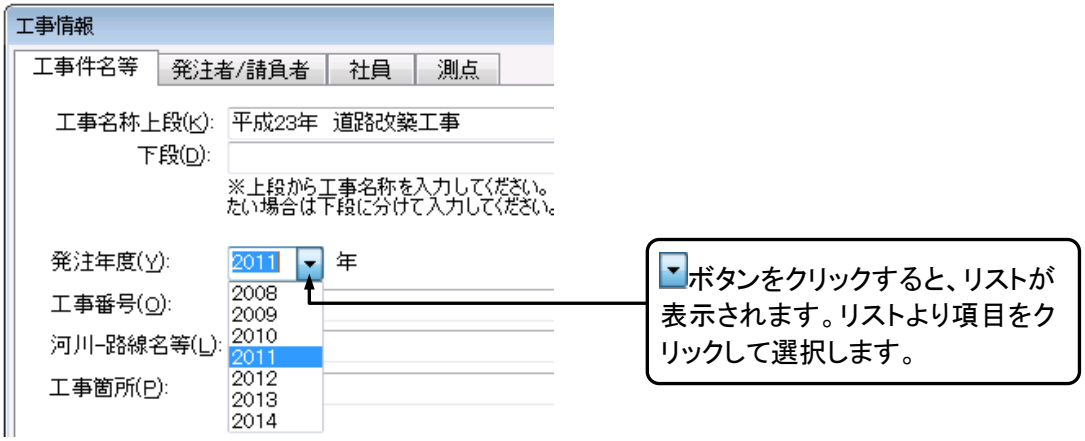
①入力欄をクリックし、データを入力します。

②入力欄を移動するには、キーボードの[↑][↓][←][→]キーを押して上下左右に移動する、[Enter]キーを押して一つ下の入力欄に移動する、または入力したい欄をマウスクリックで選択します。

キーボードの[↑][↓][←][→]キー、[Enter]キー、またはマウスクリックでカーソルを移動し、データを入力します。

リストから選択する

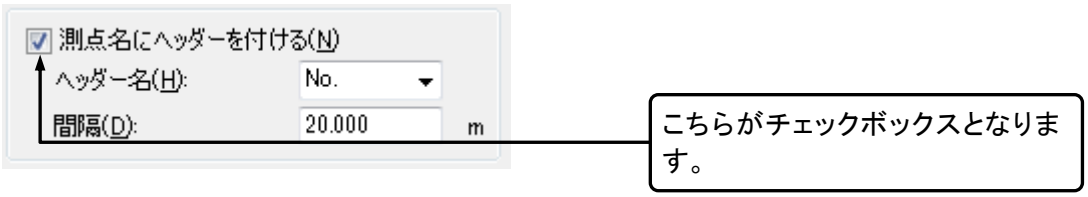
入力欄右に▼ボタンがある入力欄では▼ボタンをクリックすることでリストが表示されます。表示されたリストから入力したい項目名をクリックすることで入力ができます。



■カレンダー形式の入力欄
選択したい日をカレンダーよりクリックして選択します。

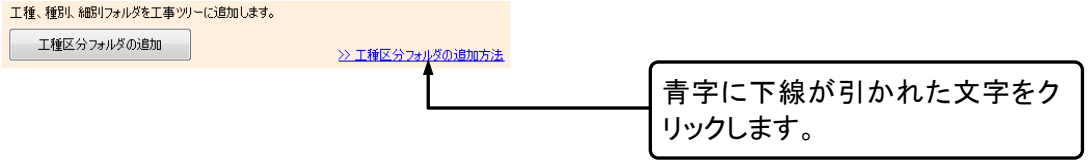
チェックをつける

チェックボックスはクリックすると、チェックがつきます。チェックがついている状態でクリックするとチェックが外れます。



文字表示等をクリックする

ボタンやコマンドをクリックする以外に青字に下線が引かれた文字部をポイントするとマウスポインタの形が指差した状態に変わります。クリックすると画面が切り替わります。



2. システムの起動と終了

システムの起動方法と終了方法について解説します。

システムを起動する

①Windows の[スタート]ボタンをクリックし、[すべてのプログラム]をクリックします。

②[QuickProject]をクリックし、次に[出来形マネージャ 4.0]をクリックします。

③システムが起動し、設定によって[メニュー(工事選択)]ダイアログが表示されます。

■デスクトップのアイコン

をダブルクリックすることでも起動します。

■起動時に[メニュー(工事選択)]ダイアログを表示したい場合は、下記二つの設定をご確認ください。
・オプションで「起動時に工事選択ダイアログを表示する」が設定されていますか。(P63「表示に関する設定」参照)
・「次回、工事を自動で開く」が設定されていませんか。(P15「既存の工事を開く」参照)

システムを終了する

①ウィンドウ右上の (閉じる)ボタンをクリックすると、システムが終了します。

②データはすべて自動保存されますので、上書き保存などの必要はありません。

3. メニュー、ツールバー

メイン画面のメニューやツールバーの各機能について解説します。

メイン画面のメニュー、ツールバー

メイン画面のメニュー一覧です。ツールバーのアイコンをクリックすることでも同じ操作が可能です。

ファイル		参照項
	新規作成・・・新しい工事を作成します。	P14
	工事一覧・・・[メニュー(工事選択)]ダイアログを表示して、既存の工事を読み込みます。	P15
—	**閉じる**・・・現在作業している工事を閉じます。(閉じた後に他の工事の作業をする場合)	—
	印刷(Excel ファイル出力)・・・出来形管理図等を Excel ファイルへ出力します。	P44
	総括表の出力・・・総括表を出力します。	P65
—	**PhotoManager データ読み込みウィザード**・・・PhotoManage のデータを読み込みます。	P56
—	**終了**・・・出来形マネージャを終了します。	P11
編集		
	元に戻す・・・作業を戻します。	—
	切り取り・・・選択した文字を切り取ります。	—
	コピー・・・選択した文字をコピーします。	—
	貼り付け・・・切り取り、コピーした文字をカーソルのある場所に貼り付けます。	—
	削除 ・・・文字、フォルダを削除します。	—
表示		
	作業の流れ・・・作業手順の一覧表を表示します。	-
	工事情報・・・工事情報ダイアログを表示します。	P16
データ		
	データチェック・・・工事情報・検測内容に不備がないか確認します。	P77
—	**データチェック設定**・・・データチェックの設定を行います。	P78
	チェック結果一覧・・・最後に行ったデータチェックの結果を表示します。	-
—	**社内規格値の一括変更**・・・社内の規格値を一括で変更します。	P42
—	**測点名の一括変更**・・・測点名を一括で変更します。	P33

ツール		参照項
—	**工種区分フォルダの編集**・・・工事ツリーのフォルダのマスタを編集します。	P27
—	**構造物集マスタ**・・・構造物集マスタを表示します。	P70
—	**構造物集の切り替え**・・・使用している構造物集を変更します。	P69
	エクスプローラ・・・エクスプローラを表示します。	–
—	**データの最適化・修復**・・・マスターと現在の構造物集のデータベースを最適化・修復します。	–
—	**オプション**・・・オプションを表示します。	P62
写真連携		
	連携する PhotoManager データの選択・・・連携する PhotoManager データを選択します。	P57
—	**PhotoManager データの確認**・・・連携している PhotoManager データを確認します。	P59
	データ連携の解除・・・PhotoManager との連携を解除します。	P60
	連携する写真ファイルの選択・・・連携する写真を選択します。	P57
	写真ファイルの連携解除・・・写真の連携を解除します。	P61
	連携中の写真情報・・・連携中の写真情報を表示します。	P59
—	**連携中の写真を表示**・・・連携中の写真を表示します。	–
ヘルプ		
	操作マニュアル・・・操作マニュアルを表示します。	—
	ワイズのホームページを表示・・・(株)ワイズのホームページを表示します。	—
	ワイズのダウンロードページを表示・・・(株)ワイズのダウンロードページを表示します。	—
	ワイズのサポート表示・・・(株)ワイズのサポートページを表示します。	—
—	**リモートサポートへ接続**・・・弊社専用リモートサポートサイトへ接続します。詳しくは、サポートセンター(0269-65-4710)へご相談ください。	—
	お問合せ・・・メールにてお問合せができます。	—
—	**最新のアップデートファイルを確認**・・・アップデートファイルの確認をします。	—
—	**アップデート確認の設定**・・・アップデートファイルを確認する間隔を設定します。	—
—	**バージョン情報**・・・本システムの情報が表示されます。	—

工事データの保存

入力した工事データは自動保存されますので、保存をする必要はありません。

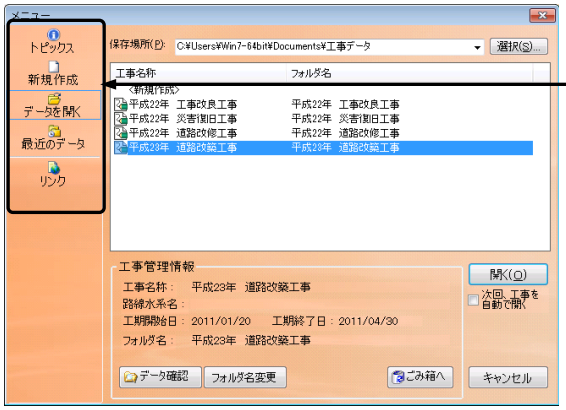
4. 工事データの新規作成・既存のデータを選択する

新規で工事を作成する、保存してある既存の工事を開くなど、工事ファイルの管理について解説します。

[メニュー(工事選択)] ダイアログの表示

①メニューの[ファイル]－[工事一覧]又は をクリックします。

②[メニュー(工事選択)]ダイアログが表示されます。



作業を選択します。

■設定によっては、システムの起動時にも表示されます。(P11「システムを起動する」参照)

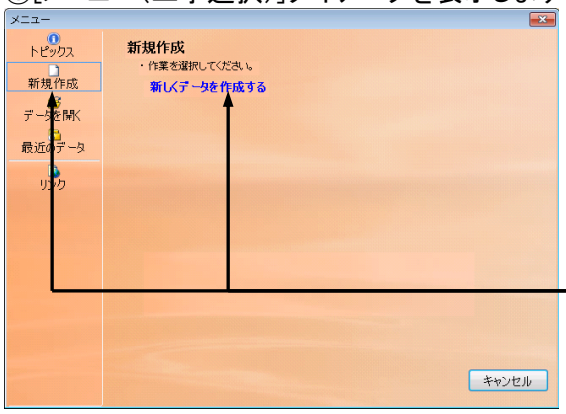
■[トピックス]では、新機能や便利な使い方を確認できます。

■[最近のデータ]では、最近編集された工事のデータを編集日の新しいものから順に並んで表示されます。保存した位置を指定しなくても読み込むことができます。

■[リンク]では、CALS/EC に関するホームページを確認できます。

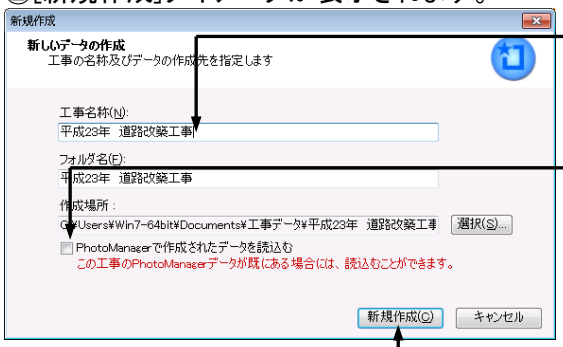
新規に工事を作成する

①[メニュー(工事選択)]ダイアログを表示します。



[新規作成]をクリックし、[新しくデータを作成する]をクリックします。

②[新規作成]ダイアログが表示されます。



1. 工事名称を入力します。

■PhotoManager で作成されたデータがある場合は読み込むことができます。
(→P52「PhotoManager データの読み込み」参照)

2. [新規作成]ボタンをクリックします。

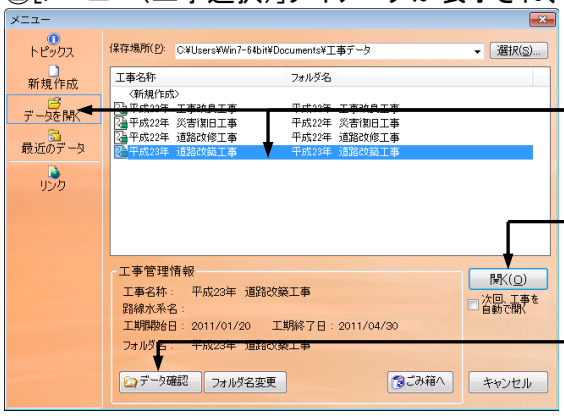
③工事情報ダイアログが表示されますので、入力を行います。(→P16「5. 工事の情報を入力する」参照)

■メニューの[ファイル]－[新規作成]をクリック、または ボタンをクリックすることでも工事ファイルを新規作成することができます。

既存の工事を開く

①メニューの[ファイル]－[工事一覧]又は をクリックします。

②[メニュー(工事選択)]ダイアログが表示され、



1. [データを開く]をクリックし、「工事を選択します。

2. [開く]ボタンをクリックします。

■[データ確認]ボタンをクリックすると、データの保存場所をエクスプローラで確認できます。

■標準ではマイドキュメントの「工事データ」フォルダに保存されています。
保存場所を変更するには[保存場所]右の[▼]ボタンをクリックし該当するフォルダを選択するか、[選択]ボタンをクリックし該当するフォルダを指定します。

■[次回、工事を自動で開く]にチェックを入れると、次回システムを起動際に、[メニュー(工事選択)]ダイアログは表示されず、最後に開いていたファイルが自動的に開かれます。

5. 工事の情報を入力する

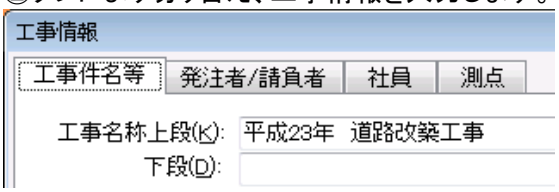
工事データの作成の基本となる基本情報、社員、測点データを入力します。工事情報はデータを新規作成した際に表示される[工事情報]ダイアログから入力します。[工事情報]ボタンからダイアログを表示できるので、後から変更することも可能です。

工事情報ダイアログの表示

①[工事情報]ダイアログを表示させます。

メニューの[表示]－[工事情報]又は[工事情報]ボタンをクリックします。

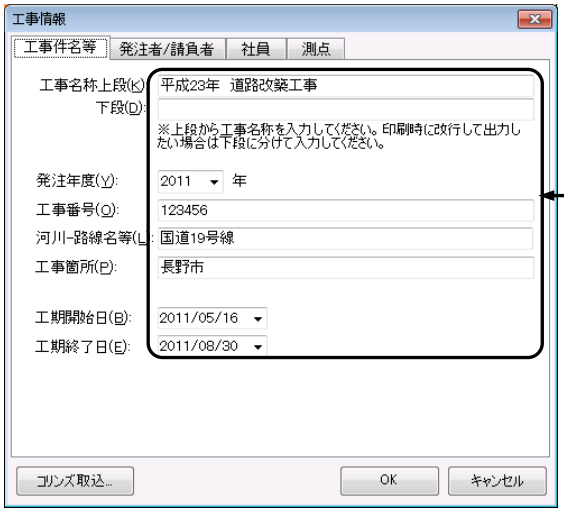
②タブにより切り替え、工事情報を入力します。



③入力が終わりましたら、[OK]ボタンをクリックします。

工事件名等

[工事件名等]タブをクリックし、入力を行います。

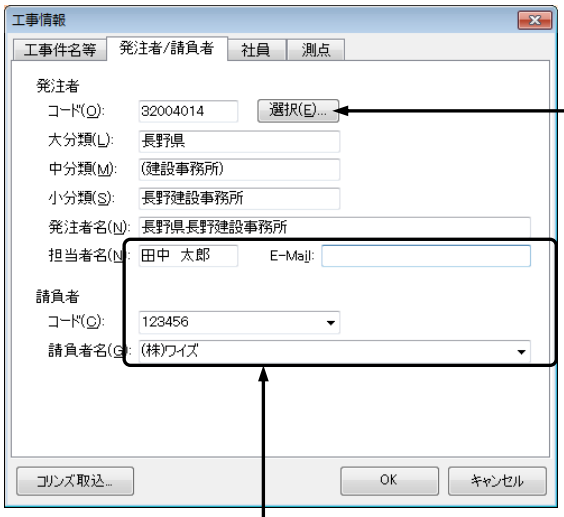


工事件名等の必要事項を入力します。

■工事名を2段で表示する必要がある場合は[下段]にも入力をします。

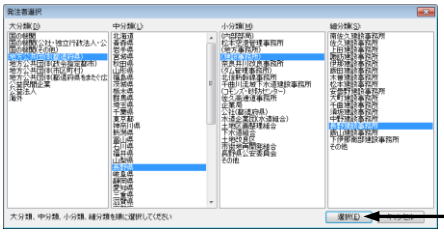
発注者/請負者

[発注者／請負者]タブをクリックし、入力を行います。



1. [選択]ボタンをクリックします。

2. CORINS の発注者データが表示されます。大分類、中分類、小分類、細分類の順にクリックして発注者を選択します。選択が終わったら、[選択]ボタンをクリックします。

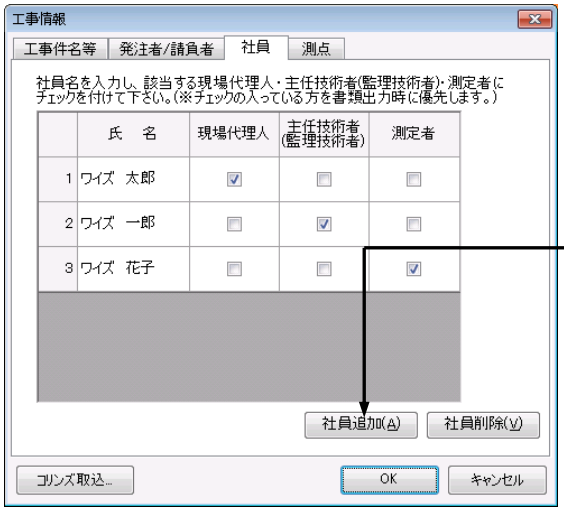


3. その他必要事項を入力します。

社員

書類に出力する社員（主に測定者）の氏名を入力します。

[社員]タブをクリックし、社員の情報を入力します。



[社員追加]ボタンをクリックし、社員名を入力します。複数の社員を登録する場合はこの作業を繰り返し行います。

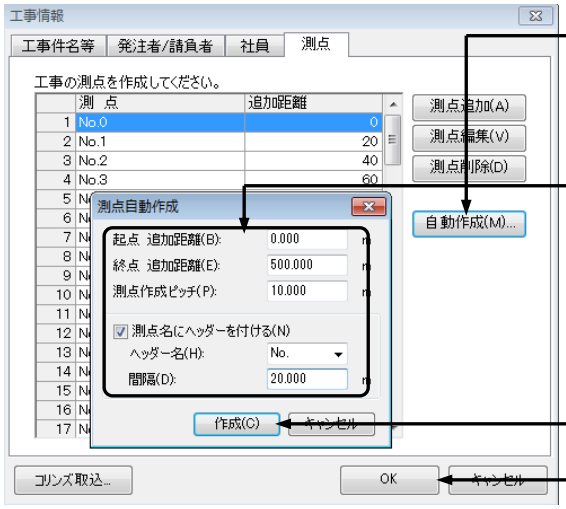
■削除するには削除したい社員名をクリックし、[社員削除]ボタンをクリックします。

測点

検測する測点を登録します。登録した測点は検測種別に一括で追加できます。
（→P30「測点リストへ測点の一括追加」参照）

測点を自動作成する

[測点]タブをクリックし、測点の情報を入力します。



1．[自動作成]ボタンをクリックします。

2．必要項目を入力します。測点名に[No.]をつける場合には、[測点名にヘッダーを付ける]にチェックをつけます。

3．入力が終了したら、[作成]ボタンをクリックします。

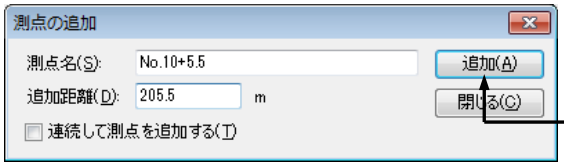
4．表示された測点でよければ[OK]ボタンをクリックします。

測点を追加・編集・削除する

測点を追加する

①[測点追加]ボタンをクリックします。

②[測点の追加]ダイアログが表示されます。



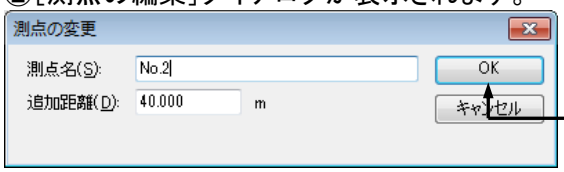
測点名と追加距離を入力して[追加]ボタンをクリックします。

■測点の追加を連続して行う場合は、[連続して測点を追加する]にチェックを入れます。
■追加が終了したら[閉じる]ボタンをクリックします。

測点を編集する

①編集する測点を選択し、[測点編集]ボタンをクリックします。

②[測点の編集]ダイアログが表示されます。



測点名と追加距離を変更して[OK]ボタンをクリックします。

測点を削除する

削除する測点を選択し、[測点削除]ボタンをクリックします。

6. 工事ツリーを作成する

工事ツリーは工事名の他に工種、種別、細別、検測種別がツリー構造で表示されます。各フォルダをクリックすると、そのフォルダに関する情報が画面の右側に表示されます。

工事ツリーの基本

■本ソフトウェアでは書類作成に必要な次のデータをフォルダ形式で管理しています。

工事名 → 工事フォルダ

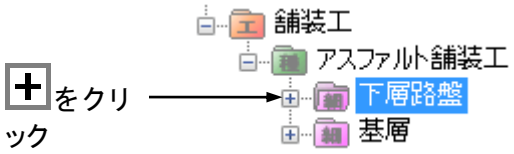
工種 → 工種フォルダ （オレンジ）

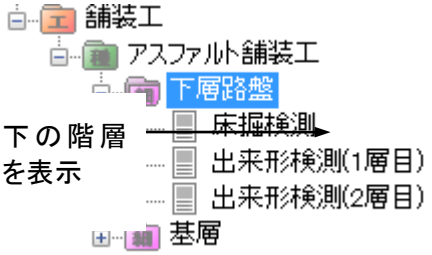
種別 → 種別フォルダ （緑）

細別 → 細別フォルダ （ピンク）

検測種別 → 検測種別フォルダ

■ツリー表示の をクリックすると下の階層を非表示にします。 をクリックすると、下の階層を表示します。

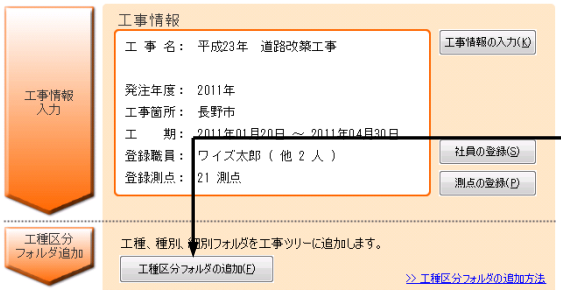




工種の追加

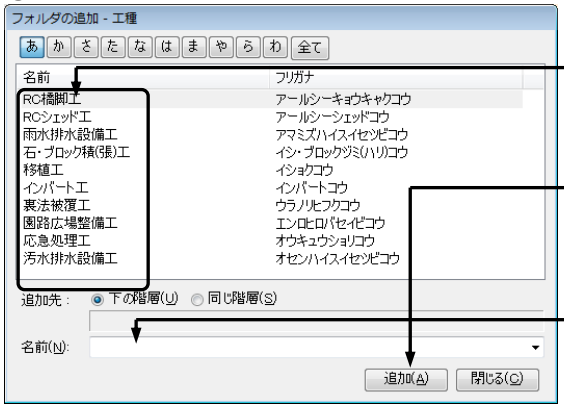
工事ツリーの工事名フォルダに工種フォルダを追加します。

①作業の流れを表示します。



[工種区分フォルダの追加]ボタンをクリックします。

②[フォルダの追加・工種]ダイアログが表示されます。



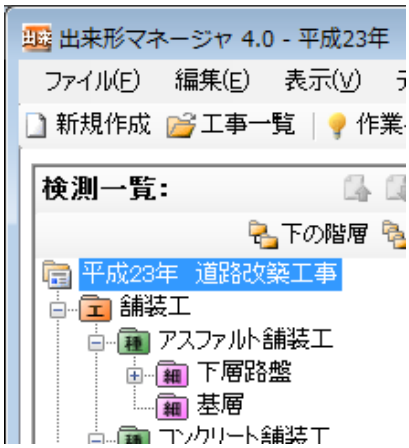
1. 追加する工種を選択します。

2. [追加]ボタンをクリックします。

■工種を一覧から選択せずに、名前の欄に直接工種名を入力して追加することも出来ます。

■工種名をダブルクリックしても追加することができます。

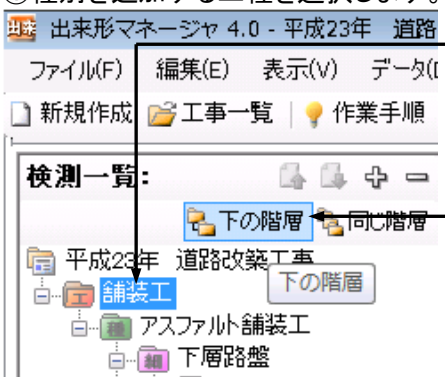
■工事名フォルダを選択して[下の階層]ボタンでも[フォルダの追加・工種]ダイアログを表示できます。



種別の追加

工事ツリーの工種フォルダに種別フォルダを追加します。

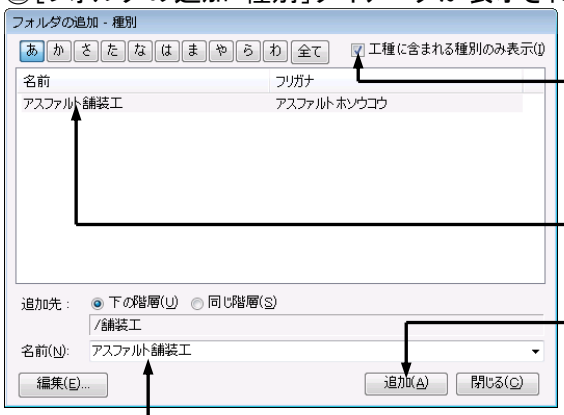
①種別を追加する工種を選択します。



1．工種をクリックして選択します。

2．[下の階層]ボタンをクリックします。

②[フォルダの追加・種別]ダイアログが表示されます。



■[工種に含まれる種別のみ表示]にチェックを入れると、選択した工種に含まれる種別のみ表示されます。

1．追加する種別を選択します。

2．[追加]ボタンをクリックします。

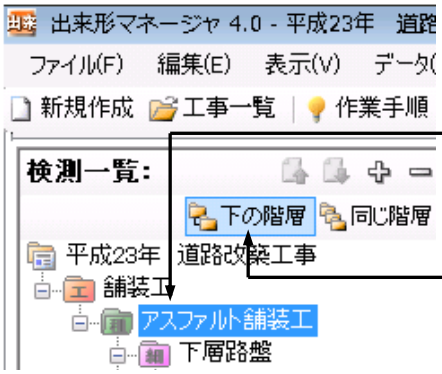
■種別を一覧から選択せずに、名前の欄に直接種別名を入力して追加することも出来ます。

■工種フォルダを選択していない場合は種別フォルダを追加することができません。
■種別名をダブルクリックしても追加することができます。

細別の追加

工事ツリーの種別フォルダに細別フォルダを追加します。

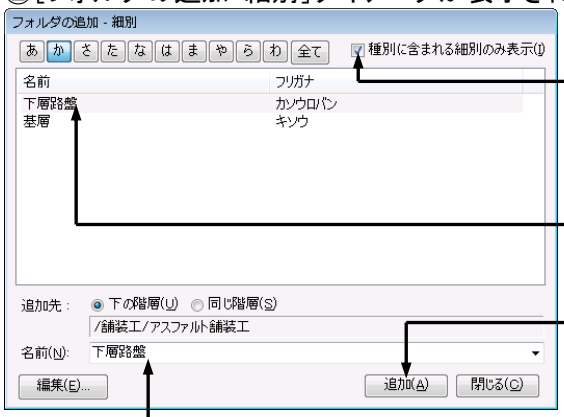
①細別を追加する種別を選択します。



1．種別をクリックして選択します。

2．[下の階層]ボタンをクリックします。

②[フォルダの追加・細別]ダイアログが表示されます。



■[種別に含まれる細別のみ表示]にチェックを入れると、選択した種別に含まれる細別のみ表示されます。

1．追加する細別を選択します。

2．[追加]ボタンをクリックします。

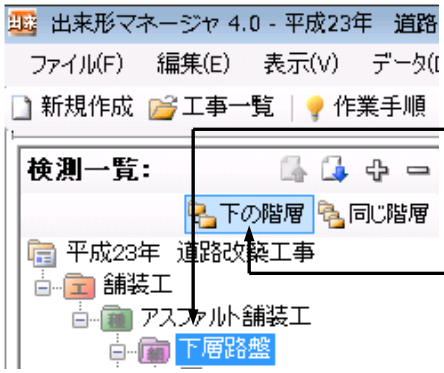
■細別を一覧から選択せずに、名前の欄に直接細別名を入力して追加することも出来ます。

■種別フォルダを選択していない場合は細別フォルダを追加することができません。
■細別名をダブルクリックしても追加することができます。

検測種別の追加

工事ツリーの細別フォルダに検測種別フォルダを追加します。

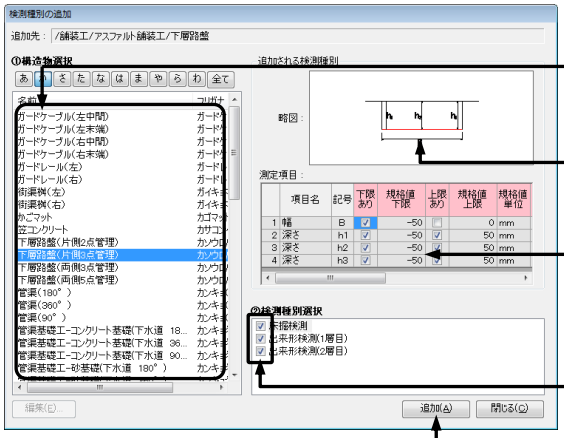
①検測種別を追加する細別を選択します。



1．細別をクリックして選択します。

2．[下の階層]ボタンをクリックします。

②[検測種別の追加]ダイアログが表示されます。



1．構造物をクリックして選択します。

■略図が表示されます。

■測定項目が表示されます。

■検測種別が表示されます。追加する検測種別もチェックを外すことで変更できます。

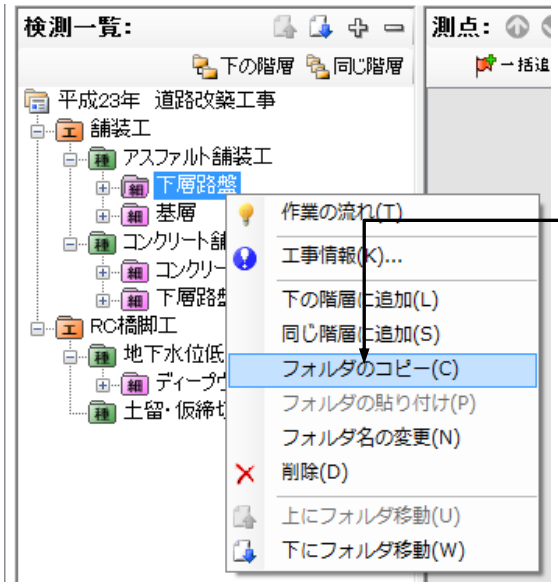
2．[追加]ボタンをクリックします。

■細別フォルダを選択していない場合は検測種別フォルダを追加することができません。
■ここに表示されているデータはすべて検測種別フォルダと同時に追加されます。略図、検測項目はメイン画面で追加、編集することができます。

フォルダのコピー・貼り付け

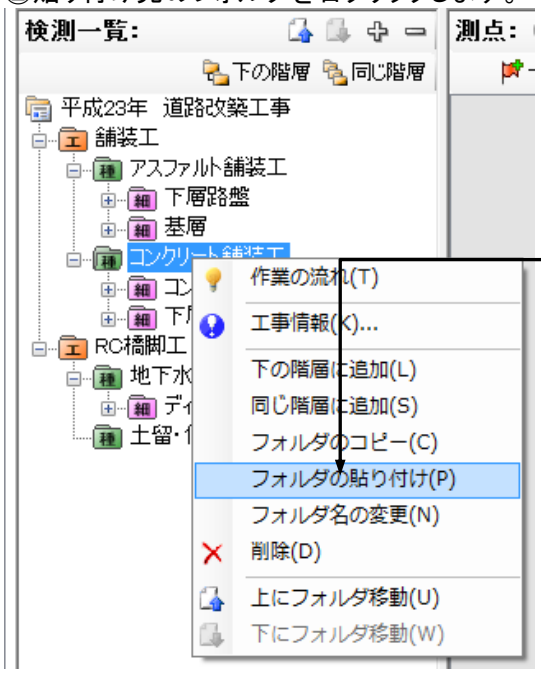
工事ツリーに追加済みのフォルダをコピーして、別の位置に貼り付けることができます。コピーしたフォルダは、貼り付け後も同じ階層でなければなりません。

①コピーをしたい工種・種別・細別・検測種別を右クリックします。



[フォルダのコピー]をクリックします。

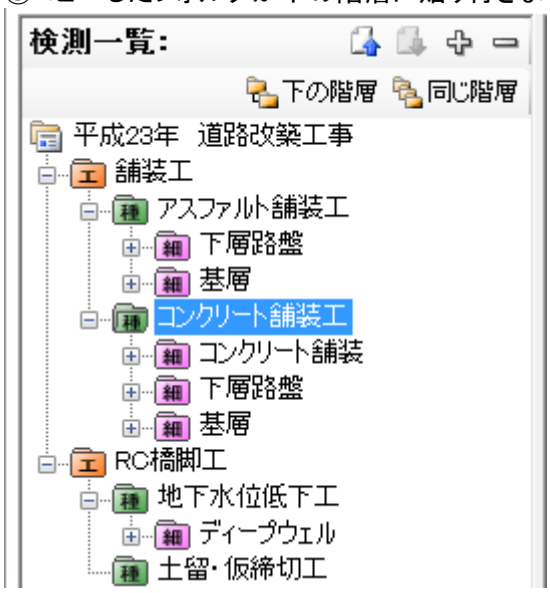
②貼り付け先のフォルダを右クリックします。



[フォルダの貼り付け]をクリックします。

■コピーしたフォルダの一つ上の階層のフォルダにのみ貼り付けが可能です。
例：細別フォルダをコピーした場合は、種別フォルダに貼り付け可能となります。

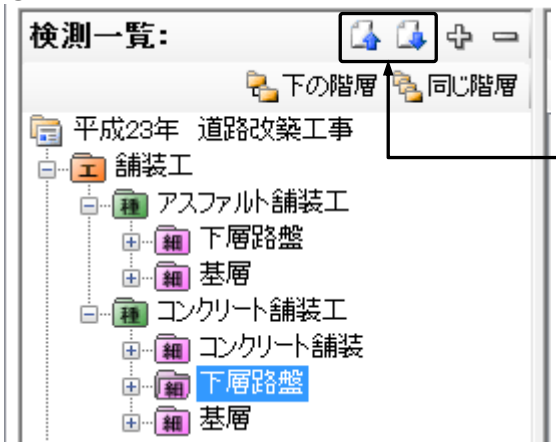
③コピーしたフォルダが下の階層に貼り付きます。



フォルダの移動

追加済みの工種・種別・細別・検測種別の順番を変更します。

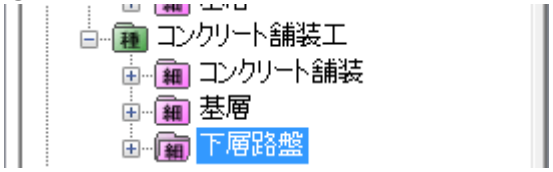
①順番を変更したいフォルダ・検測種別を選択します。



上に移動する場合は、ボタンをクリックし、下に移動する場合は、ボタンをクリックします。

■右クリックメニューの[上にフォルダ移動]・[下にフォルダ移動]ボタンでも移動が可能です。

②フォルダが移動します。

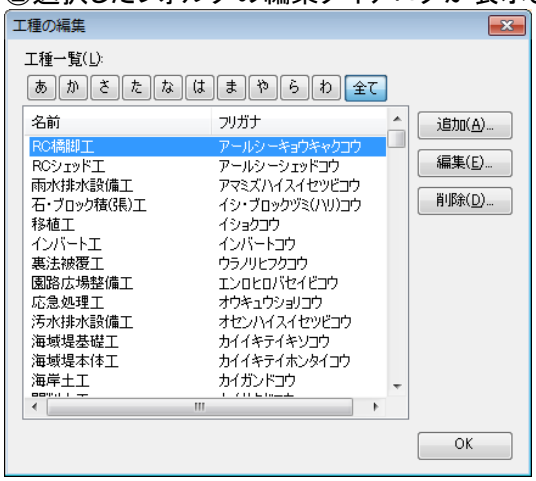


工種・種別・細別のマスタ編集

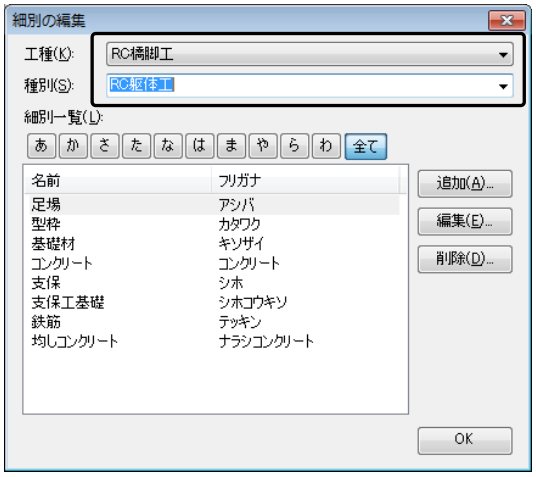
工種・種別・細別の編集ダイアログの表示

①メニューの[ツール]-[工種区分フォルダの編集]から編集を行うフォルダを選択します。

②選択したフォルダの編集ダイアログが表示されます。

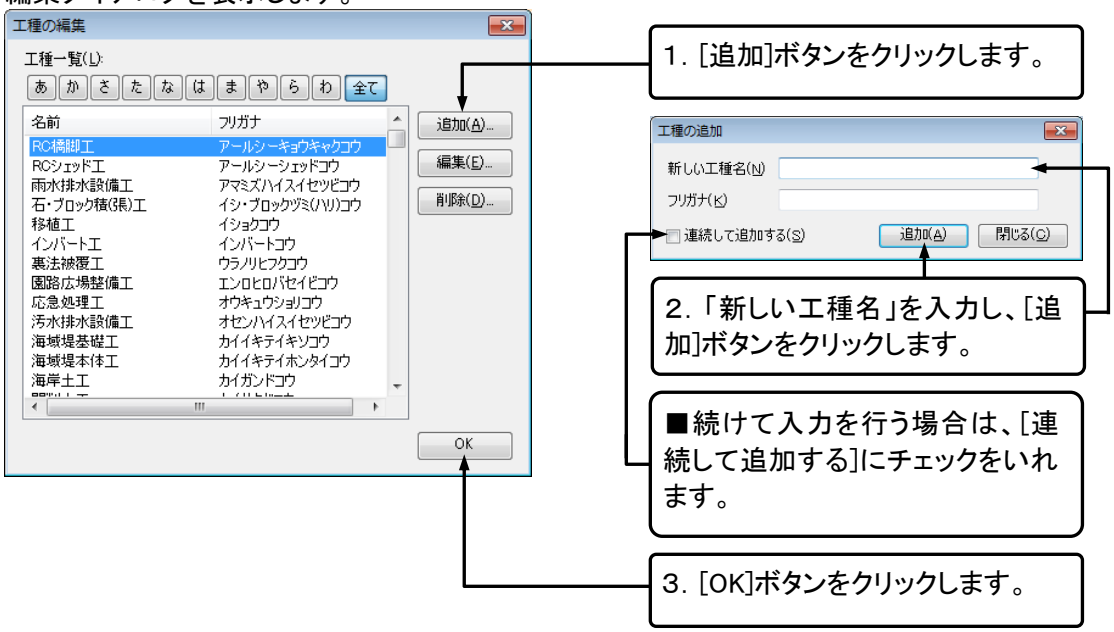


■種別・細別の編集の場合は、ダイアログ表示後に、[工種]・[種別]を選択します。



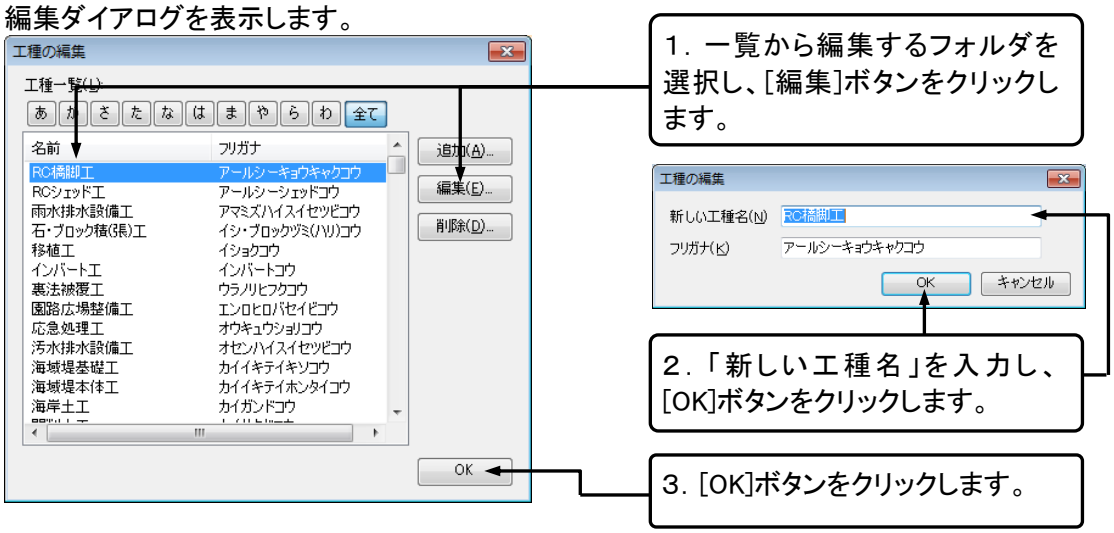
工種・種別・細別の追加

編集ダイアログを表示します。



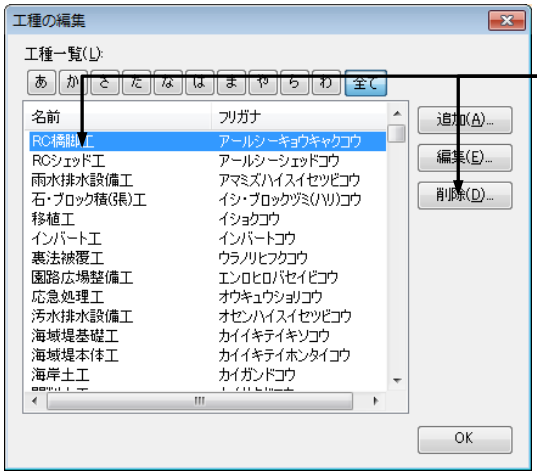
工種・種別・細別の編集

編集ダイアログを表示します。



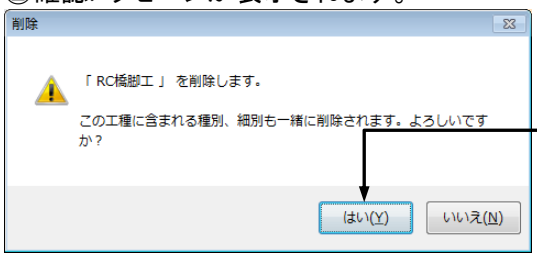
工種・種別・細別の削除

①編集ダイアログを表示します。



一覧から削除するフォルダを選択し、[削除]ボタンをクリックします。

②確認メッセージが表示されます。



[はい]ボタンをクリックします。

③[OK]ボタンをクリックして、ダイアログを閉じます。

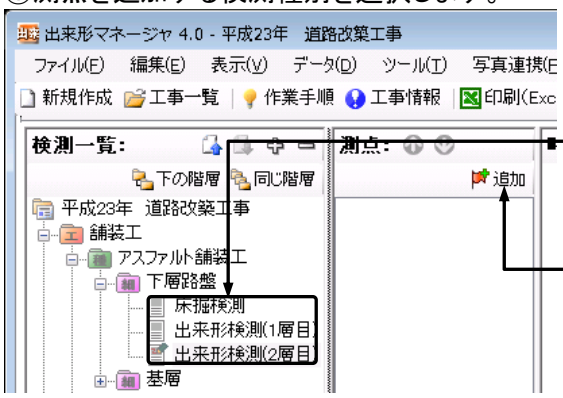
7. 測点リストを作成する

工事ツリーの右側に表示されているのが測点リストです。工事ツリーで検測種別をクリックすると、登録されている測点のリストが表示されます。測点リストに表示されている測点をクリックすると、それぞれの測点での実測値を入力する事ができます。

測点リストへ測点の一括追加

工事情報に登録済みの測点（→P18「測点」参照）を、測点リストへ一括で追加します。

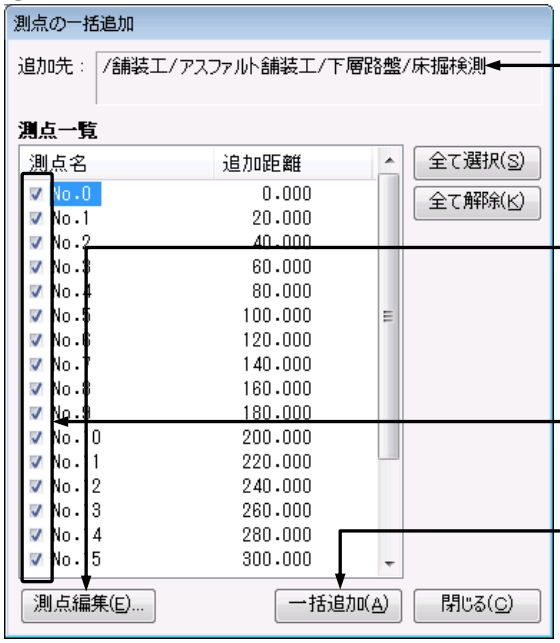
①測点を追加する検測種別を選択します。



1. 測点を追加する検測種別をクリックし、選択します。

2. [追加]ボタンをクリックします。

②[測点の一括追加]ダイアログが表示されます。



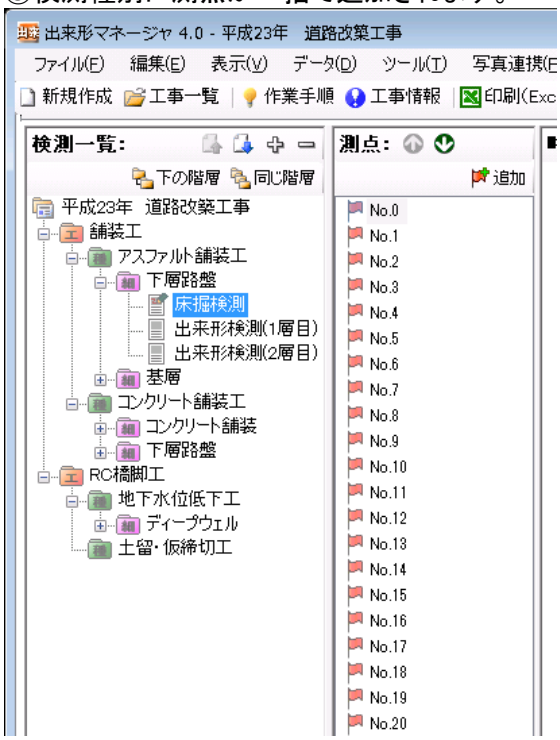
1. 追加先の検測種別を確認します。

2. 測点を編集する場合は、[測点編集]ボタンをクリックし、[工事情報]ダイアログを表示し、測点の編集を行います。（→P18「測点」参照）

3. 追加する測点にチェックを入れます。

4. [一括追加]ボタンをクリックします。

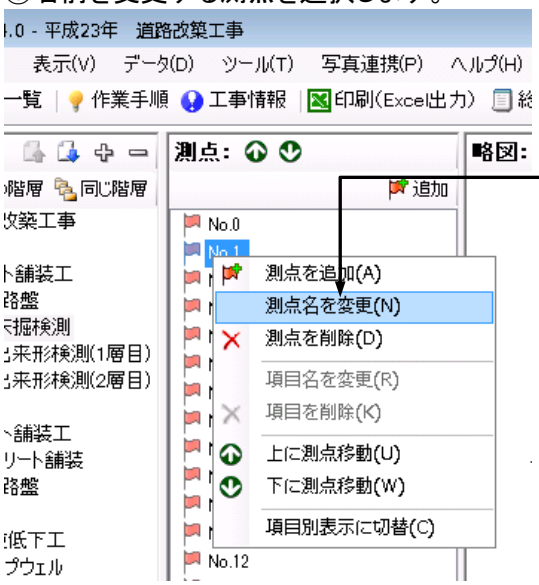
③検測種別に測点が一括で追加されます。



測点リストの編集

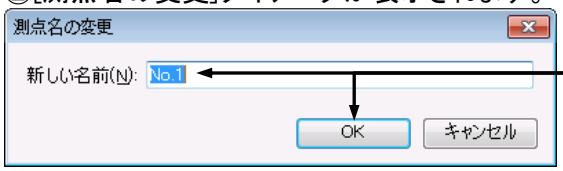
追加した測点の名前を変更する

①名前を変更する測点を選択します。



右クリックメニューの中から[測点名を変更]をクリックします。

②[測点名の変更]ダイアログが表示されます。



新しい測点名を入力し、[OK]ボタンをクリックします。

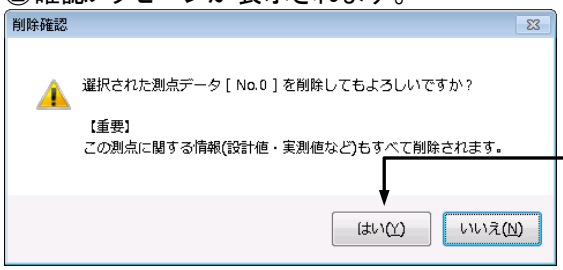
追加した測点を削除する

①削除する測点を選択します。

右クリックメニューから[測点を削除]をクリックします。

■メニュー-[編集]-[削除]からも測点を削除することができます。

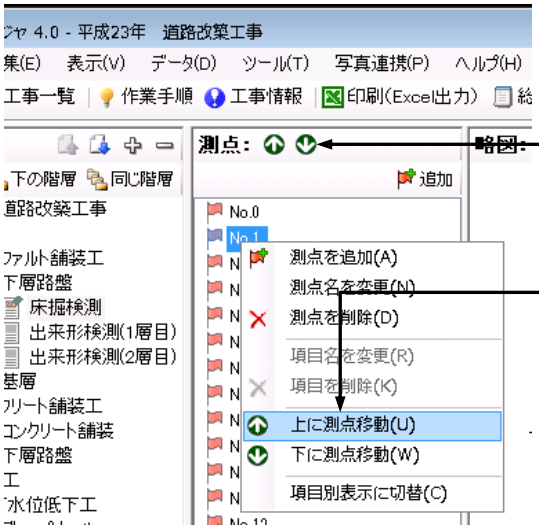
②確認メッセージが表示されます。



[はい]ボタンをクリックします。

追加した測点の順番を変更する

順番を変更する測点を選択します。



■測点を選択し、ボタンでも移動可能です。

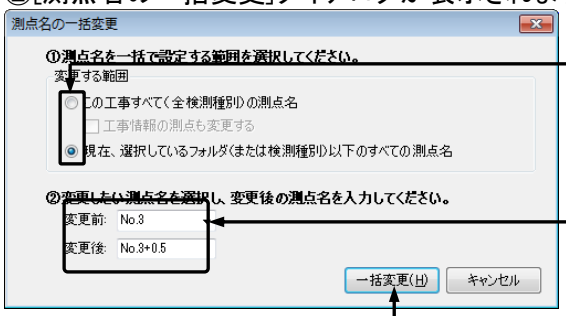
右クリックメニューの中から[上に測点移動]、[下に測点移動]をクリックし、測点を移動させます。

測点名の一括変更

検測種別に追加済みの測点名を一括で変更します。

①メニューの[データ]－[測点名の一括変更]をクリックします。

②[測点名の一括変更]ダイアログが表示されます。

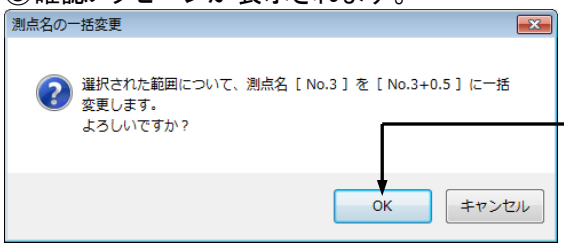


1．変更する範囲として[この工事全て]か[現在、選択しているフォルダ以下のすべて]のどちらかを選択します。

2．変更前・変更後の測点を選択・入力します。

3．[一括変更]ボタンをクリックします。

③確認メッセージが表示されます。



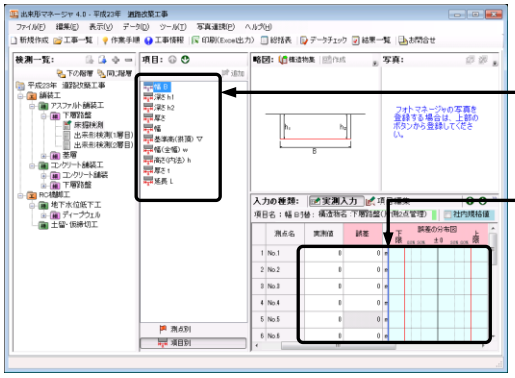
[OK]ボタンをクリックします。

項目別表示に切り替え

①測点リストの表示を切り替えます。

[項目別]ボタンをクリックします。

②表示が切り替わります。



測点リストが項目別で表示されます。

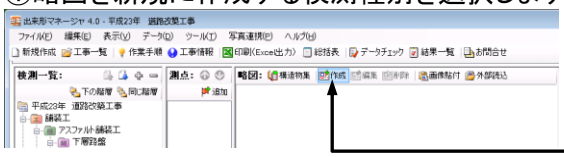
データ入力部分も項目毎の表示となります。

8. 略図を追加する

画面右上には略図が表示されます。検測種別に略図が追加されている場合に表示されます。検測種別によっては、あらかじめ略図が追加されているものもあります。略図は作図システムから新規で作成、ファイルから読み込み、既存のファイルの編集などを行うことが可能です。

略図の新規作成

①略図を新規に作成する検測種別を選択します。



■既に略図が追加されている検測種別では[作成]ボタンはクリックできません。

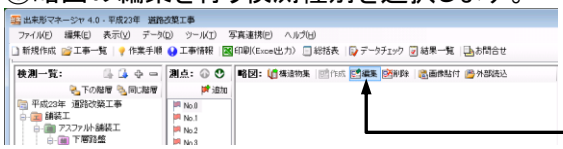
[作成]ボタンをクリックします。

②作図システムが起動します。

■作図システムの使用方法については、作図システムのマニュアルをご覧ください。

略図の編集

①略図の編集を行う検測種別を選択します。



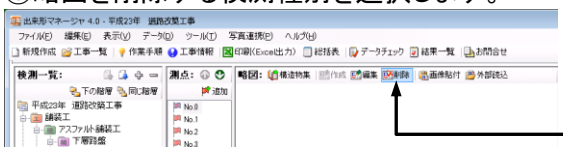
[編集]ボタンをクリックします。

②作図システムが起動します。

■作図システムの使用方法については、作図システムのマニュアルをご覧ください。

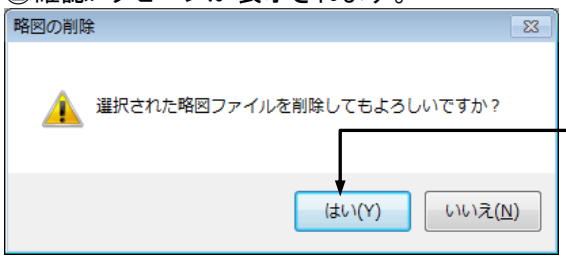
略図の削除

①略図を削除する検測種別を選択します。



[削除]ボタンをクリックします。

②確認メッセージが表示されます。



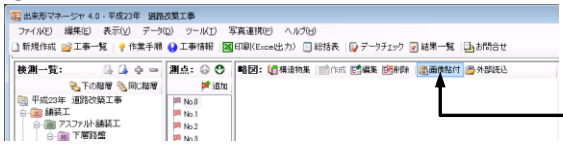
[はい]ボタンをクリックします。

画像貼付

クリップボードに略図をコピーして貼り付けることができます。Excel など他のソフトで作成した略図も貼り付けることができます。この場合略図の編集はできません。

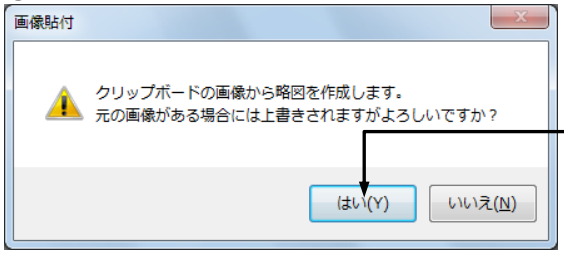
①貼り付けを行いたい画像をあらかじめコピーしておきます。

②略図に画像を貼り付けたい検測種別を選択します。



[画像貼付]ボタンをクリックします。

③確認メッセージが表示されます。

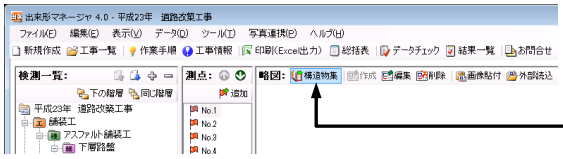


[はい]ボタンをクリックします。

構造物集から読み込み

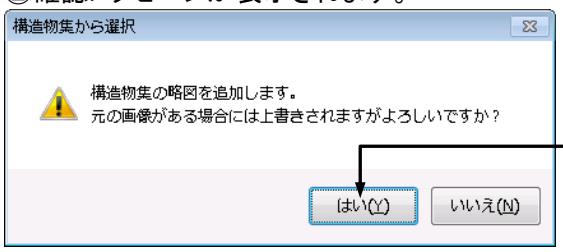
弊社構造物集で用意している一覧から略図を読み込むことが可能です。元の画像がある場合は、上書きされます。

①略図を構造物集から読み込みたい検測種別を選択します。



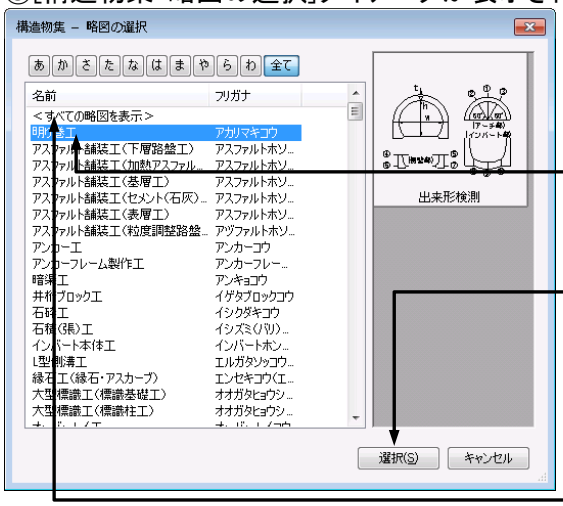
[構造物集]ボタンをクリックします。

②確認メッセージが表示されます。



[はい]ボタンをクリックします。

③[構造物集−略図の選択]ダイアログが表示されます。



1. リストから追加する略図を選択します。

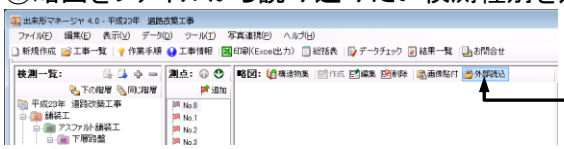
2. [選択]ボタンをクリックします。

■[すべての略図を表示]を選択すると、構造物集に登録されているすべての略図が一覧で表示されます。

外部からの読み込み

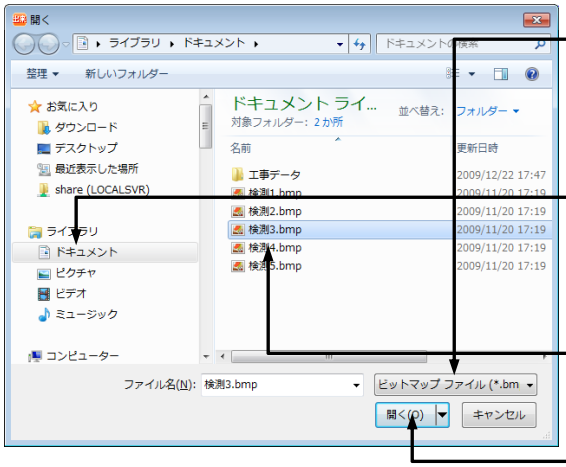
「作図システム」で作成した略図以外にも他のアプリケーションで作成されたファイルを登録することができます。この場合略図の編集はできません。

①略図をファイルから読み込みたい検測種別を選択します。



[外部読込]ボタンをクリックします。

②[ファイル選択]ダイアログが表示されます。



1. 画面の右下にあるリストボックスで表示する画像ファイルの種類を選択します。

2. 画面の左側で読み込む画像があるドライブ、フォルダを選択します。

3. 画面の右側から読み込む画像ファイルを選択します。

4. [開く]ボタンをクリックします。

9.　測定データを入力する

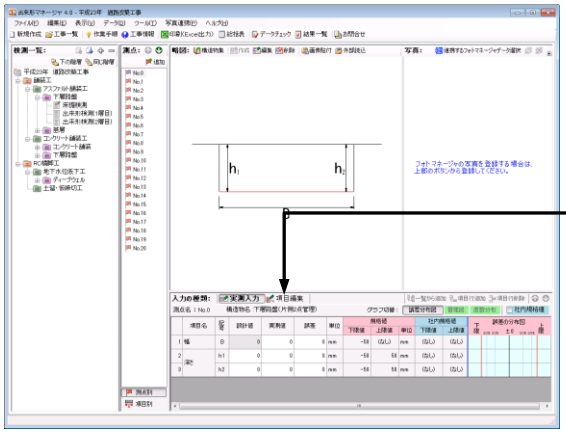
メイン画面右下の測定データ入力部分が表示されます。ここでは、実測入力と規格値、社内規格値の設定を行う項目編集を切り替えてデータの入力をしていただけます。

測定項目編集

測定項目画面の表示

工種、種別、細別、検測種別、測点を追加した状態で作業を行います。

作業を行う検測種別を選択します。



［項目編集］ボタンをクリックします。

■項目編集の場合は、測点は関係ありません。

測定項目の追加

①測定項目を追加します。

［項目行追加］ボタンをクリックします。

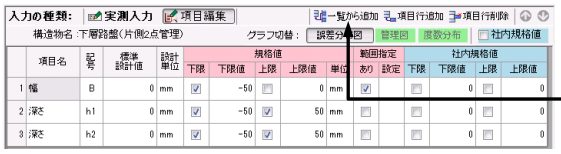
②表の最後の行に新しい行が追加されます。

③測定項目、記号を入力します。

測定項目の一括追加

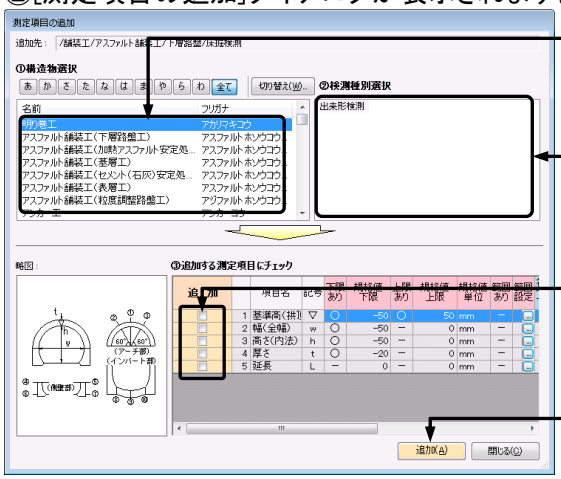
[測定項目の追加]ダイアログを表示し、一括で測定項目を追加します。

①測定項目を追加します。



[一覧から追加]ボタンをクリックします。

②[測定項目の追加]ダイアログが表示されます。



1. 構造物を選択します。

2. 検測種別を選択します。

3. 追加する測定項目にチェックを入れます。

4. [追加]ボタンをクリックします。

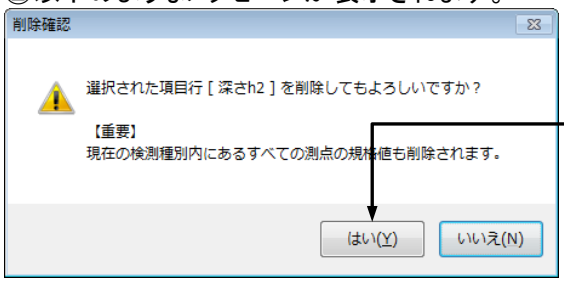
③選択した測定項目が一括で最終行に追加されます。

測定項目の削除

①測定項目を削除します。

削除したい行を選択し、[項目行削除]ボタンをクリックします。

②以下のようなメッセージが表示されます。



[はい]ボタンをクリックします。

③選択した行が削除されます。

規格値の入力又は修正

規格値及び社内規格値を入力又は修正します。

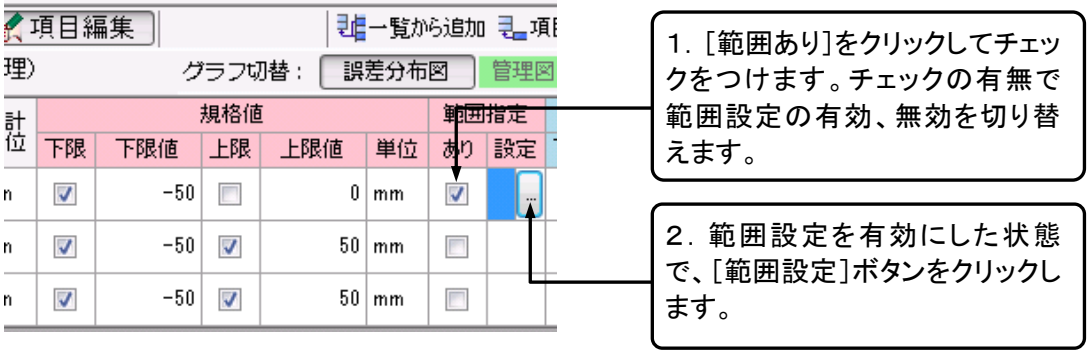
①必要に応じて、規格値及び社内規格値の入力又は修正を行います。

②実測入力の設計値がまだ入力されていない場合は、標準設計値で入力された設計値が全ての測点での設計値になります。

規格値の条件設定(範囲設定)

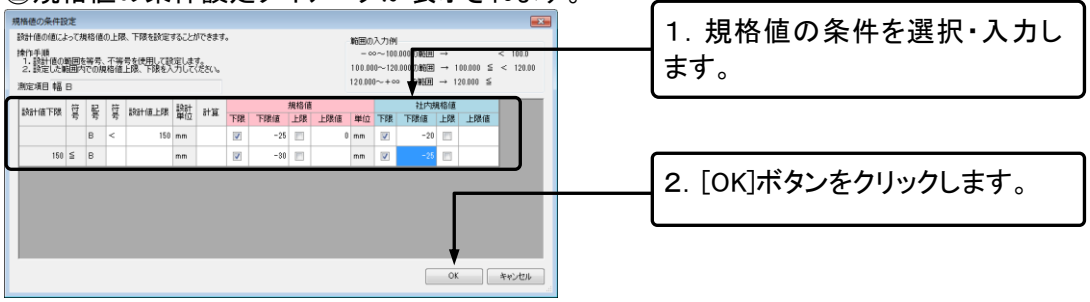
同じ測定項目でも設計値により規格値が変化する場合に設定します。

①項目編集画面より、設定する項目の行を選択します。



■[範囲選択]ボタンは選択した行にのみ表示されます。

②規格値の条件設定ダイアログが表示されます。



■1行目に[符号]と[設計値上限]を入力すると、2行目には設計値下限が自動表示されます。

■設計値上限、下限の入力例

設計値下限	符号	記号	符号	設計値上限	設計単位
		B	＜	150	mm
150	≦	B			mm

1行目の符号と設計値上限を入力すると、2行目の設計値下限と符号は自動表示されます。

■規格上限値、下限値の入力例①
・＜150 の場合　下限値　−25mm（[計算]欄には何も入力しません）
・150≦の場合　下限値　−30mm（[計算]欄には何も入力しません）

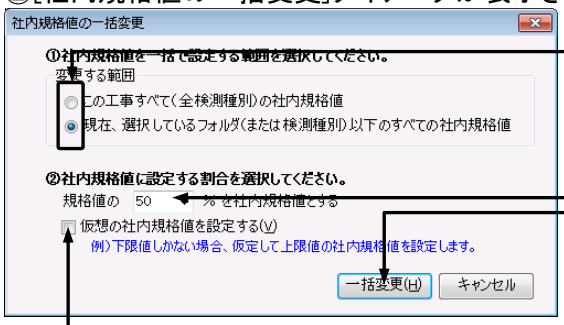
■規格上限値、下限値の入力例②
・＜100 の場合　下限値　設計値に対して 5%（[計算]欄で[%]を選択し、規格下限で「5」と入力します。例：2%＝2、10%＝10）
・100≦の場合　下限値　−5mm（[計算]欄には何も入力しません）

社内規格値の一括変更

社内規格値を一括で変更します。

①メニューの[データ]－[社内規格値の一括変更]をクリックします。

②[社内規格値の一括変更]ダイアログが表示されます。



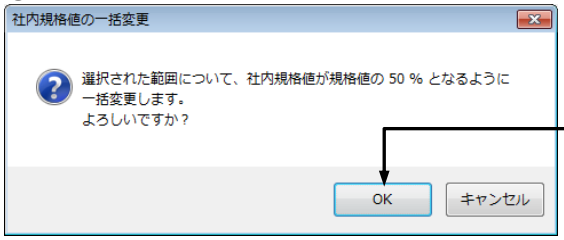
1．変更する範囲を選択します。

2．設定する割合を入力します。

3．[一括変更]ボタンをクリックします。

■[仮想の社内規格値を設定する]にチェックを入れると、規格値の上限・下限のうち一方が設定されている場合に、設定されていないもう一方にも仮想で社内規格値が設定されます。

③確認メッセージが表示されます。



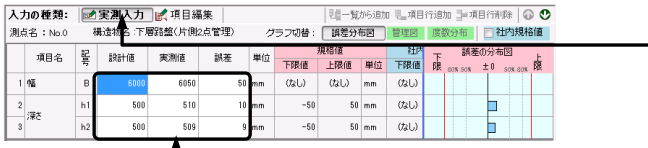
[OK]ボタンをクリックします。

実測値入力

実測入力画面

設計値、実測値を入力します。

工事ツリーから検測種別フォルダを選択し、測点を選択します。



1. [実測入力]ボタンをクリックします。

2. 実測値の入力画面が表示されますので、設計値、実測値を入力します。誤差は自動計算されます。また誤差を入力することで実測値を更新することもできます。

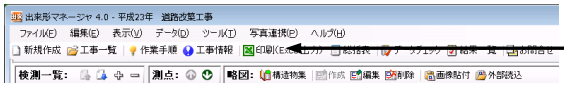
■誤差の計算方法についてはメニューの[ツール]－[オプション]の[入力]タブの計算方法で変更できます。(→P62「入力に関する設定」参照)

10. 印刷(Excel 出力)を行う

出来形管理表等の印刷(Excel 出力)を行います。

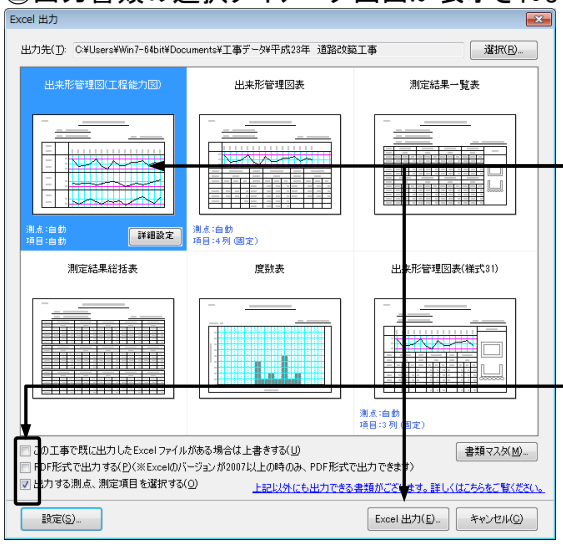
Excel 出力

①Excel 出力



[印刷(Excel 出力)]ボタン又は、メニューの[ファイル]-[印刷(Excel 出力)]をクリックします。

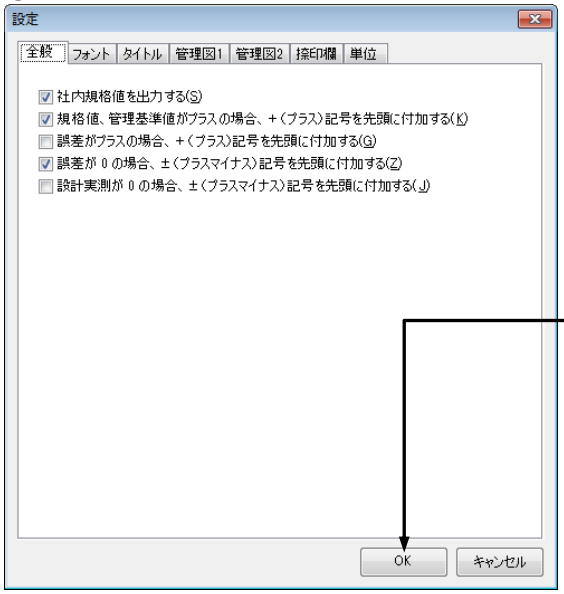
②出力書類の選択ダイアログ画面が表示されます。



出力する書類を選択して、[Excel 出力]ボタンをクリックします。複数を選択することも可能です。

■出力に関する設定を行います。(→P50「出力設定」参照)

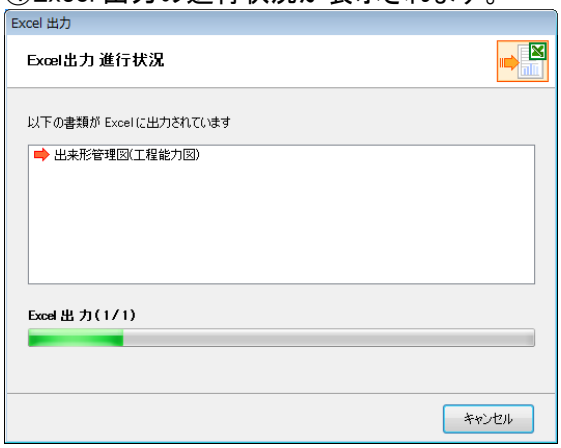
③[設定]ダイアログが表示されます。(→P46「設定(印刷)」参照)



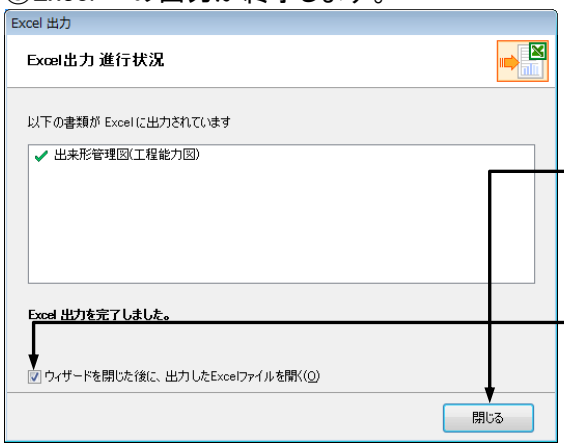
設定を確認し、[OK]ボタンをクリックします。

■[出力する測点、測定項目を選択する]にチェックを入れてある場合は、この後に[出力データ選択]ダイアログが表示されます。

④Excel 出力の進行状況が表示されます。



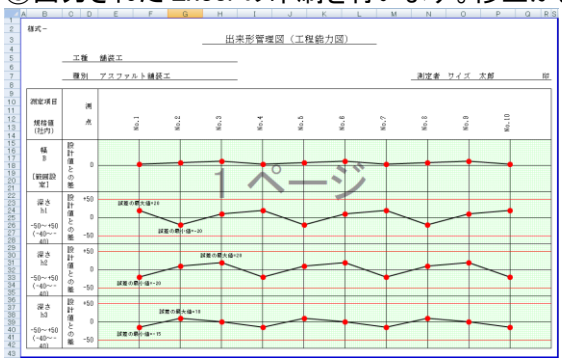
⑤Excel への出力が終了します。



[閉じる]ボタンをクリックします。

■[ウィザードを閉じた後に、出力した Excel ファイルを開く]にチェックを付けていると、Excel が起動します。

⑥出力された Excel の印刷を行います。修正がある場合はここで行います。

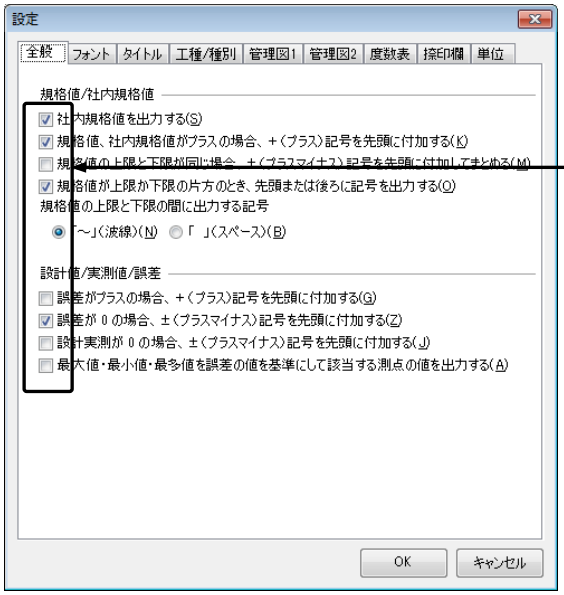


設定(印刷)

P44の②で[Excel 出力]ボタンをクリックすると、[設定]ダイアログが表示され様々な設定が行えます。タブにより設定画面を切り替えて設定を行います。

全般

[全般]タブをクリックし、設定を確認・変更します。

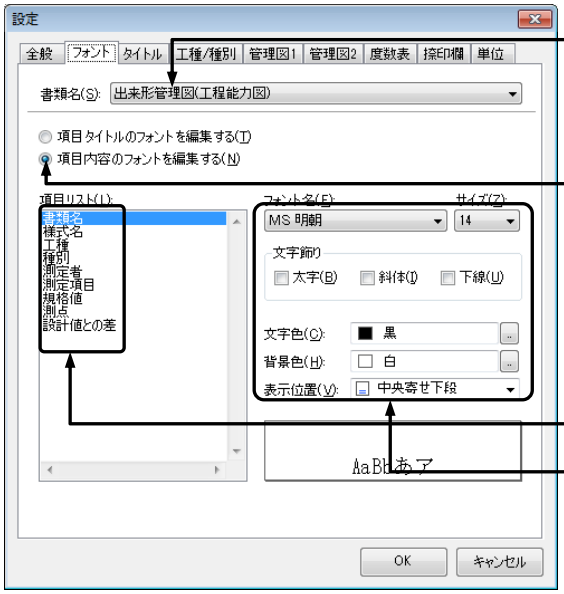


社内規格値の出力及び規格値、誤差、設計実測値の＋(プラス)記号、±(プラスマイナス)記号について設定します。

フォント

印刷する書類のフォントを設定します。

[フォント]タブをクリックし、設定を確認・変更します。



1. フォントを変更する書類を書類名より選択します。

2. [項目タイトルのフォントを編集する]または[項目内容のフォントを編集する]のどちらかを選択します。

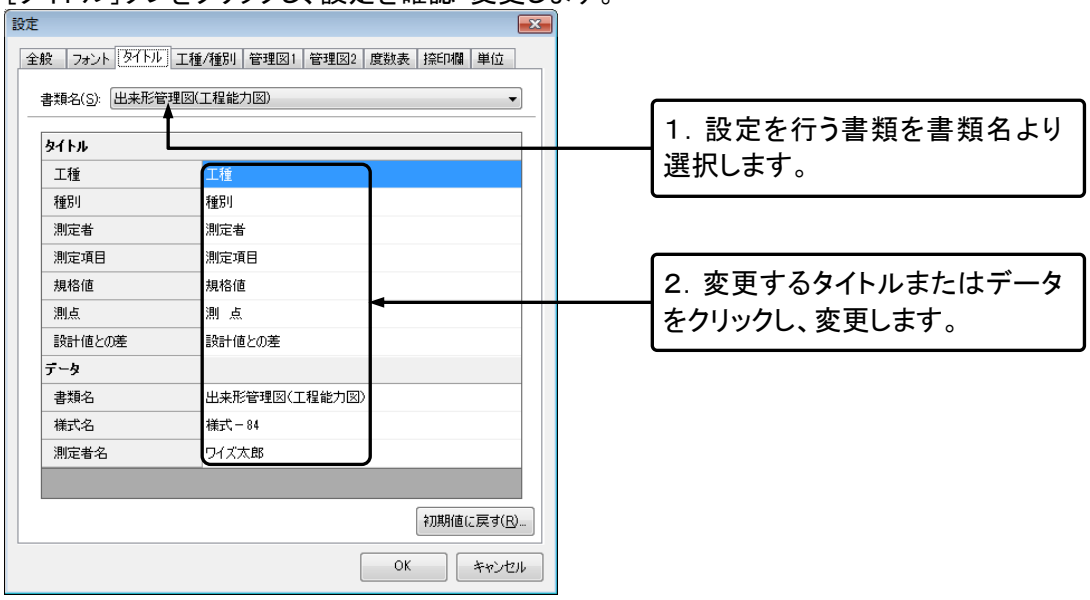
3. 項目リストからフォントの設定を行う項目を選択します。

4. フォント名・サイズ・色等を変更します。

タイトル

書類のタイトル及び測定者名等のデータを変更することができます。

[タイトル]タブをクリックし、設定を確認・変更します。

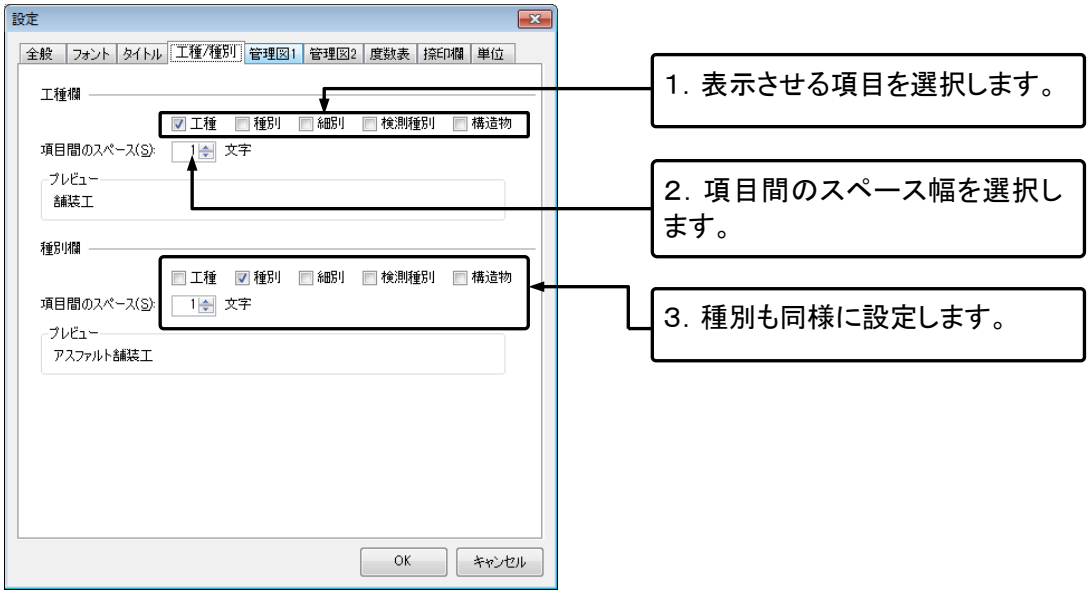


■測定者名は登録してある社員から選択することができます。

工種/種別

Excel に出力される工種・種別の設定を行います。

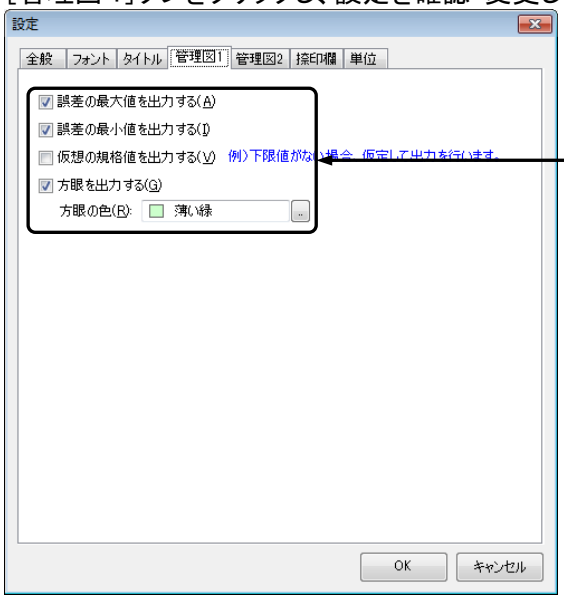
[工種／種別]タブをクリックし、設定を確認・変更します。



管理図1

出来形管理図のグラフ上に出力されるデータについて設定します。

[管理図 1]タブをクリックし、設定を確認・変更します。

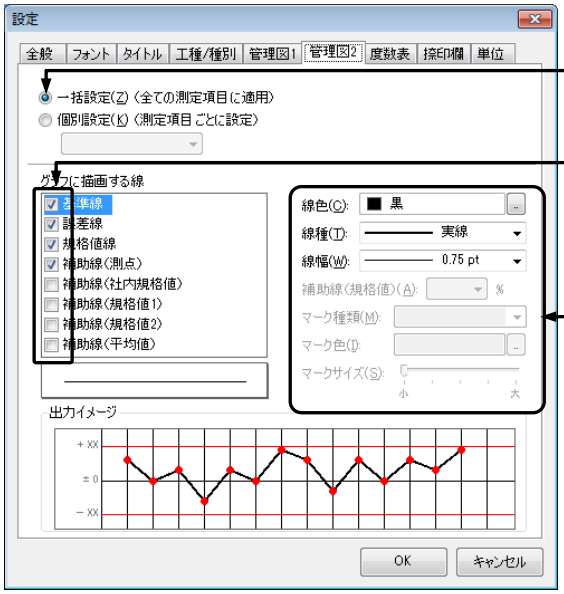


該当する項目にチェックを入れます。方眼の色を変更することもできます。

管理図2

出来形管理図のグラフ上に出力されるデータについて設定します。

①[管理図2]タブをクリックし、設定を確認・変更します。



1. [一括設定]または[個別設定]のどちらかを選択します。

2. グラフに描画する線を選択します。

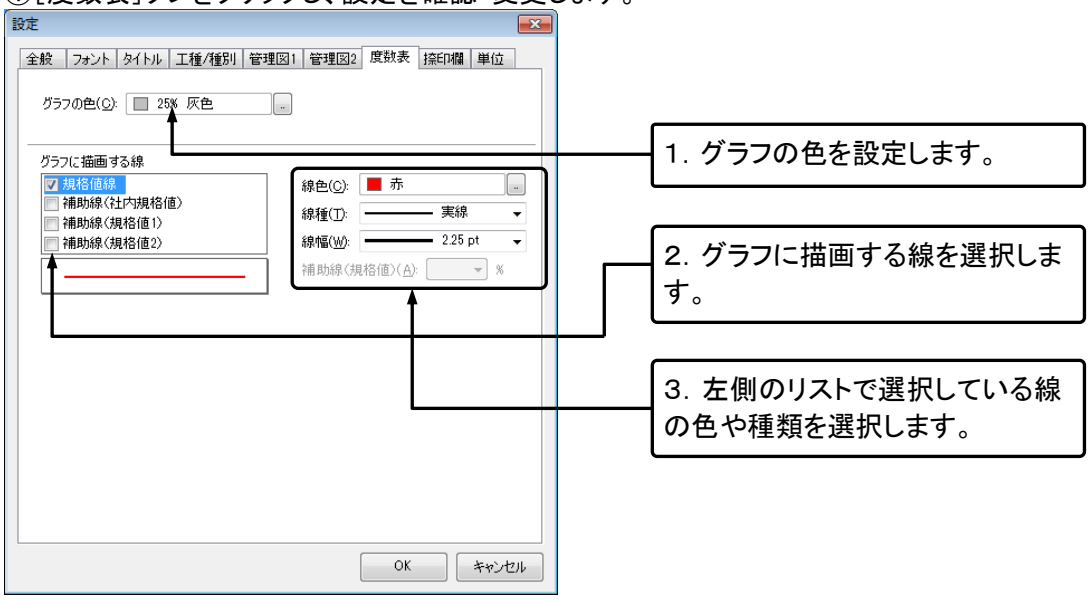
3. 左側のリストで選択している線の設定を行います。

■[一括設定]を選択すると、全ての測定項目に対して設定した内容が適用されます。[個別設定]を選択すると、選択した項目にのみ設定した内容が適用されます。

度数表

度数表の設定をします。

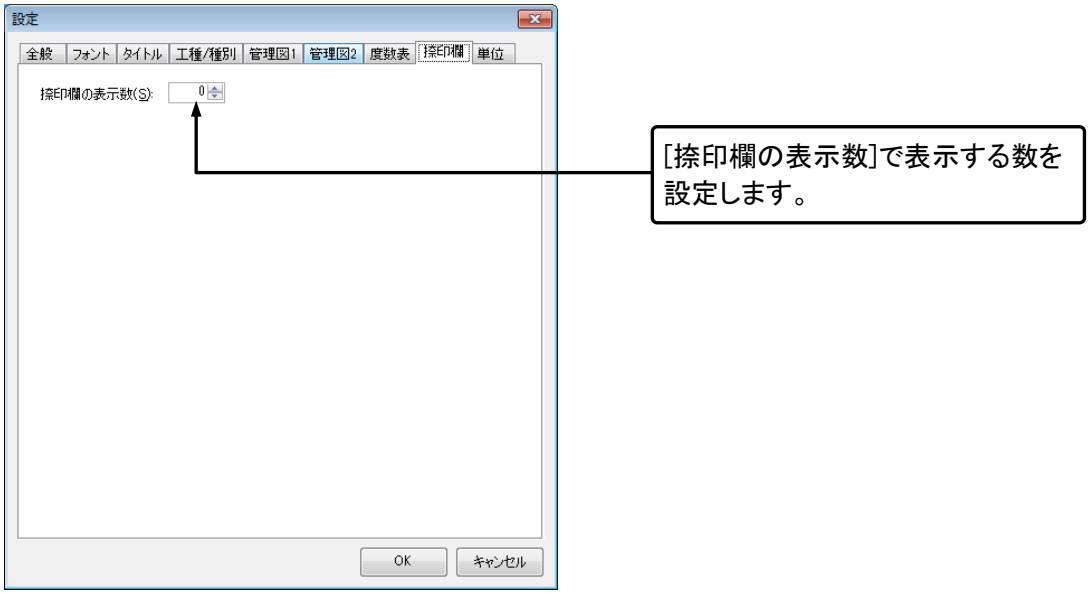
①[度数表]タブをクリックし、設定を確認・変更します。



捺印欄

捺印欄のタイトルを設定します。

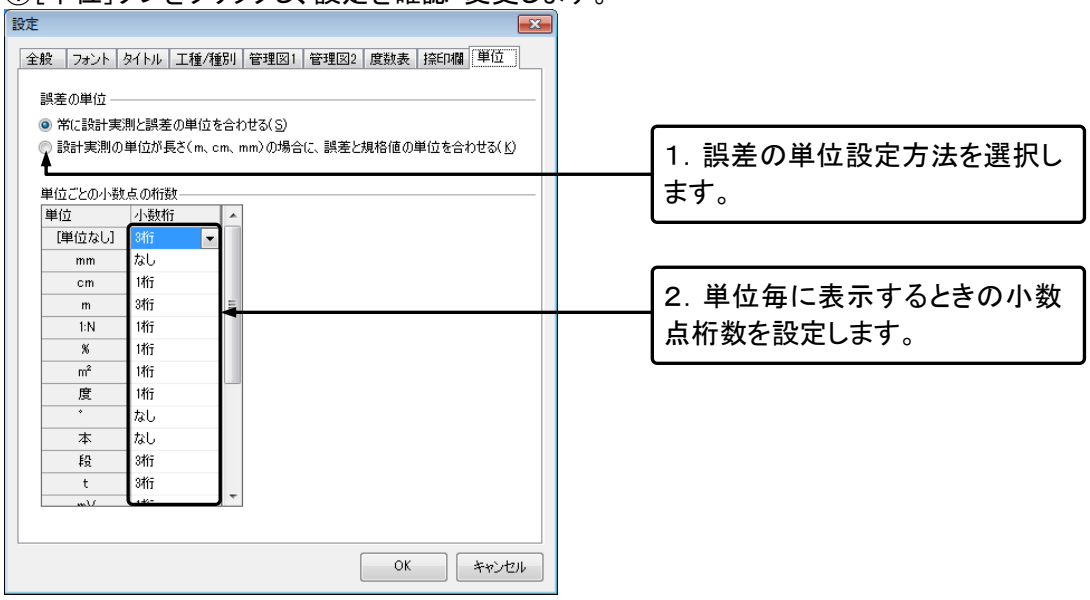
[捺印欄]タブをクリックし、設定を確認・変更します。



単位

単位の設定をします。

①[単位]タブをクリックし、設定を確認・変更します。



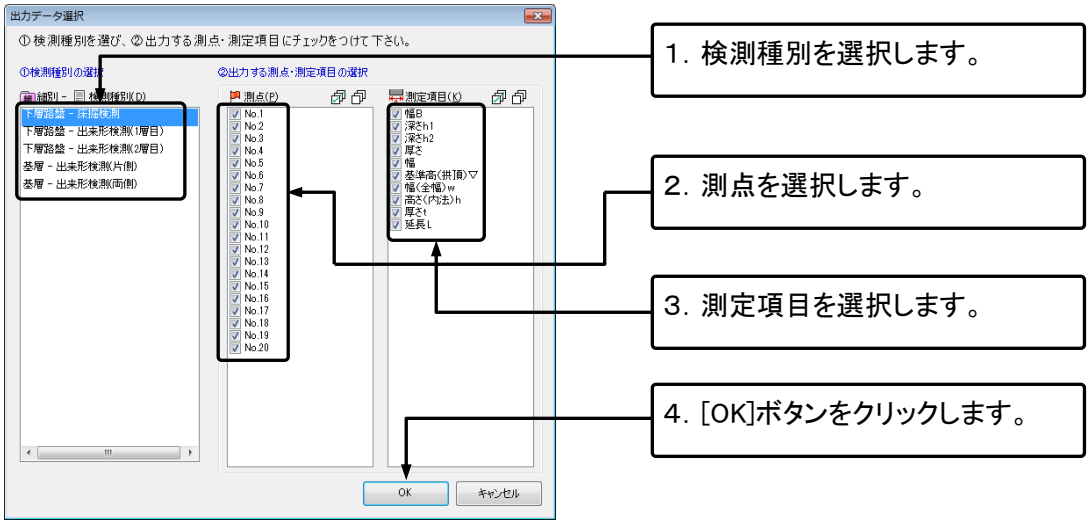
出力設定

[Excel 出力]ダイアログの下部にある 3 つの出力設定について解説します。

■[この工事で既に出力した Excel ファイルがある場合は上書きする]にチェックをいれると、以前に同工事のデータで出力した Excel ファイルがある場合に上書きします。

■[PDF 形式で出力する]にチェックをいれると、Excel ではなく PDF として出力されます。(※Excel のバージョンが 2007 以降の場合のみ有効。)

■[出力する測点、測定項目を選択する]にチェックを入れると、[設定]ダイアログの後に[出力データ選択]ダイアログが表示され、出力する測点・測定項目を選択することができます。



11. PhotoManager データの読み込み

PhotoManager で作成したデータがあれば、工事名称などの工事情報はもちろん、工事ツリーのフォルダ構成、検測種別、検測項目などを出来形マネージャに取り込むことができます。
また、双方のデータをリンクさせることができるので、一方のシステムで編集した内容をもう一方のシステムに簡単に連動させることができます。

連携の必要条件

PhotoManager のデータを出来形マネージャのデータに読み込ませる(連携させる)には PhotoManager で下記の条件を満たしていただく必要があります。

(出来形マネージャから個別に写真を選択して連携をさせる場合は、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは必要ありません。)

Ⅰ. 読み込ませる写真が「細別」フォルダに入っている

Ⅱ. 写真タイトルが入力されている

読み込み後に出来形マネージャで検測種別名となります。

Ⅲ. 撮影箇所が入力されている

読み込み後に出来形マネージャで測点名となります。

Ⅳ. 施工管理値(表)が入力されている

読み込み後に出来形マネージャで項目名や設計値・実測値となります。
また連携中は、双方で項目名が一致する設計値・実測値のデータが連携します。あとから項目名を変更して一致しなくなった場合は、設計値・実測値は連携しなくなります。

連携の際の注意点

■連携を行うと、常に PhotoManager のデータが優先されます。

■連携中は PhotoManager のデータが出来形マネージャに反映されますので、既にデータを入力済みの出来形マネージャのデータを使用し、連携を行う場合は、PhotoManager のデータで上書きされてしまいますのでご注意ください。

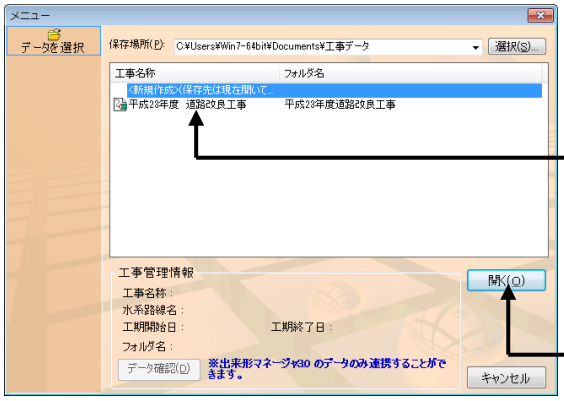
PhotoManager からの連携方法

PhotoManager を起動し、出来形マネージャのデータと連携を行います。出来形マネージャは起動していない状態で作業を行います。

①写真一覧画面で写真をダブルクリックし、[写真情報]ダイアログを表示します。

出来 ボタンをクリックします。

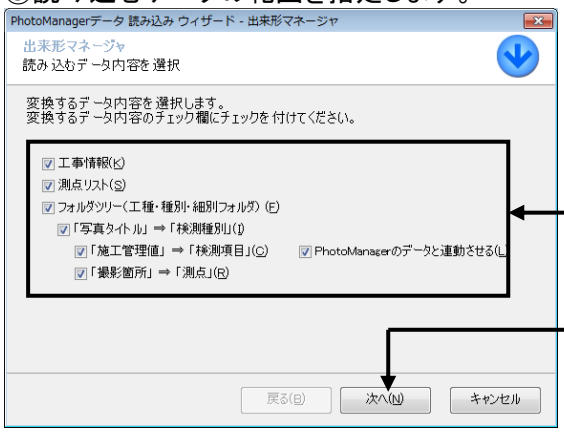
②出来形マネージャの[メニュー(工事の選択)]ダイアログが表示されますので、連携させるデータを選択します。



1. 一覧から PhotoManager と連携させる出来形マネージャのデータを選択します。
■「新規作成」を選択すると、連動する出来形マネージャのデータを新規に作成します。

2. [開く]ボタンをクリックします。

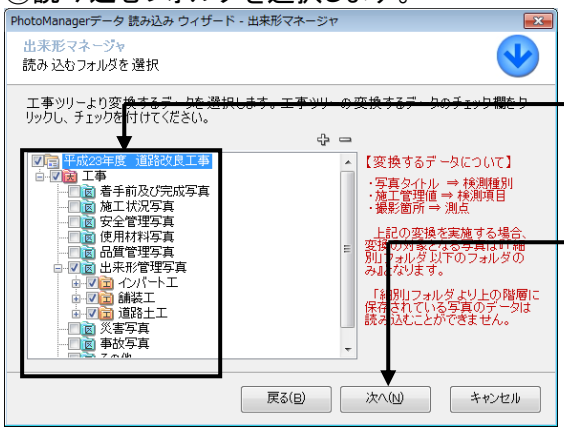
③読み込むデータの範囲を指定します。



1. 出来形マネージャが起動し、PhotoManager データ読み込みウィザードが表示されますので、読み込むデータの範囲を指定します。

2. [次へ]ボタンをクリックします。

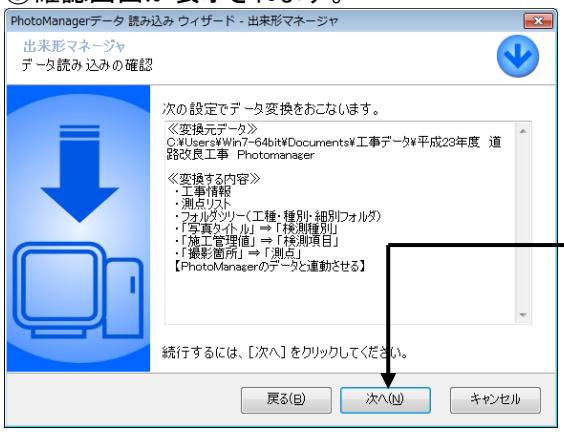
④読み込むフォルダを選択します。



1．読み込むフォルダを選択します。

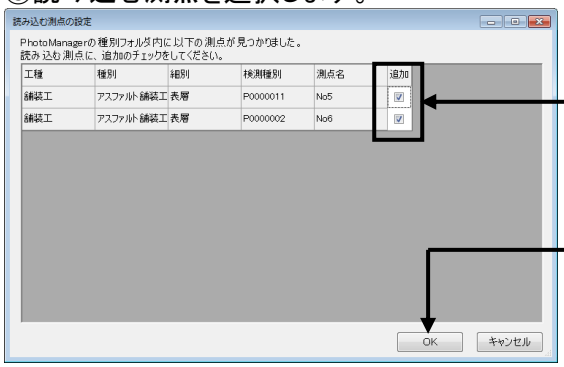
2．[次へ]ボタンをクリックします。

⑤確認画面が表示されます。



[次へ]ボタンをクリックします。

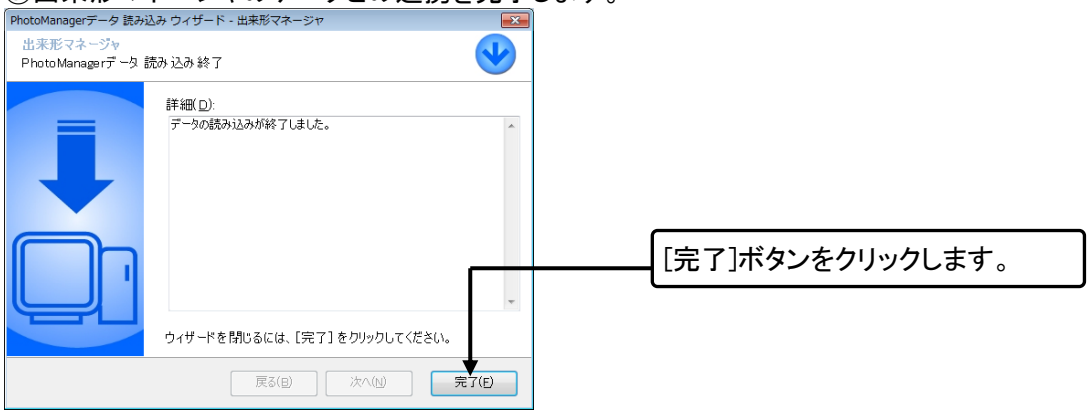
⑥読み込む測点を選択します。



1．読み込む測点にチェックを入れます。

2．[OK]ボタンをクリックします。

⑦出来形マネージャのデータとの連携を完了します。



⑧出来形マネージャに読み込んだ PhotoManager のデータが反映されます。

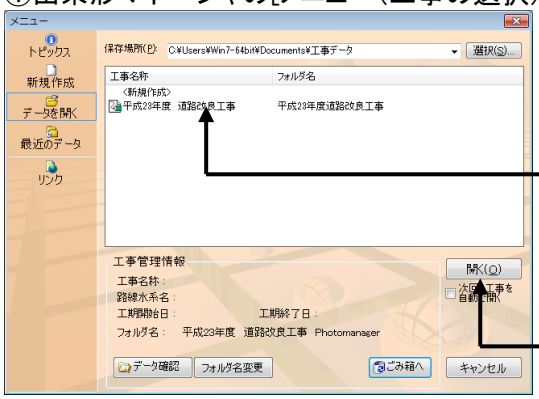
	連携する PhotoManager データを選択します。
写真選択	連携済みの PhotoManager のデータからリンクさせる写真を選択します。
解除	現在リンクしている PhotoManager の写真を解除します。
情報	現在リンクしている PhotoManager の写真の情報を表示します。
	写真を拡大・縮小表示します。
	現在の枠のサイズに収まる最大のサイズで表示します。

■メニューの[写真連携]にも各ボタンに

出来形マネージャからの連携方法

出来形マネージャを起動し、PhotoManager のデータと連携させます。

①出来形マネージャの[メニュー(工事の選択)]ダイアログを表示します。

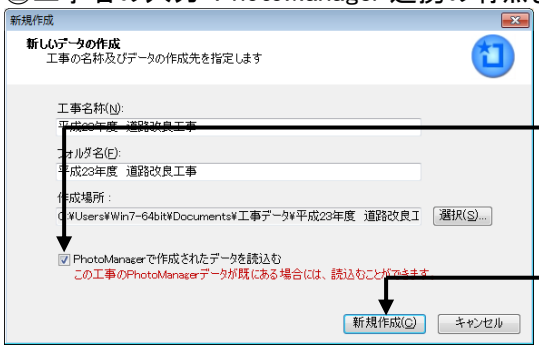


1.「新規作成」または、既存の工事を選択(※)します。

2. [開く]ボタンをクリックします。

(※)既存の出来形マネージャのデータの連携を行う場合は、連携させるデータを開き、メニューの[ファイル]-「PhotoManager データ読み込みウィザード」から行えます。

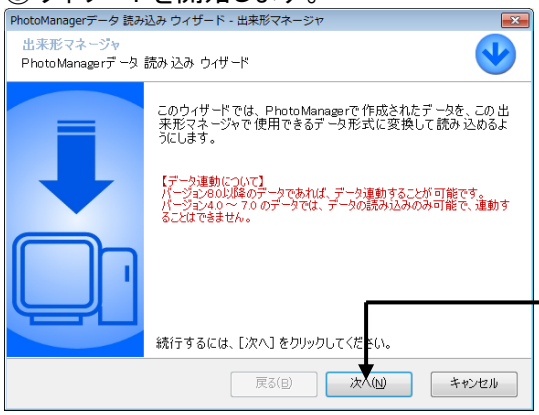
②工事名の入力・PhotoManager 連携の有無を選択します。



1. 工事名を入力し、[PhotoManager で作成されたデータを読み込む]にチェックを入れます。

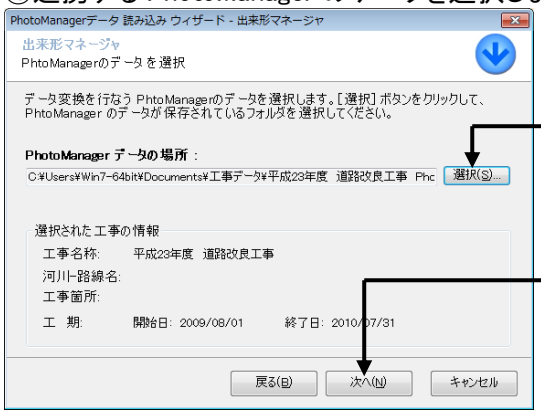
2. [新規作成]ボタンをクリックします。

③ウィザードを開始します。



[次へ]ボタンをクリックします。

④連携する PhotoManager のデータを選択します。



1. [選択]ボタンをクリックし、連携する PhotoManager のデータを選択します。

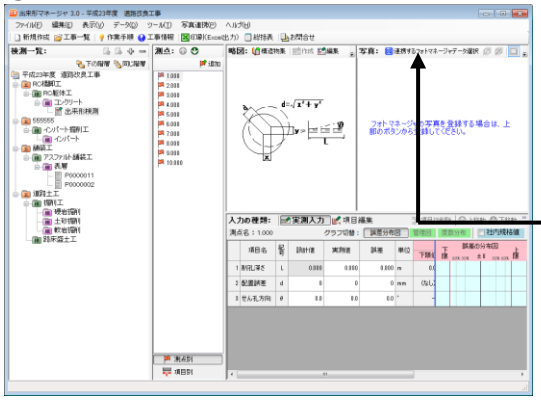
2. [次へ]ボタンをクリックします。

これ以降の作業は PhotoManager から連携を行う場合③からと同様作業となります。

個別に写真を選択し連携する

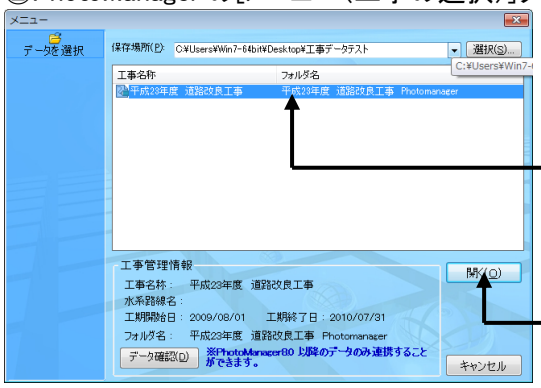
PhotoManager データ読み込みウィザードを使用せずに、出来形マネージャから PhotoManager の写真を個別に選択して、連携を行うことが可能です。この連携の場合の必要条件は、「Ⅳ. 施工管理値(表)が入力されている」のみとなります。

①出来形マネージャを起動し、連携させる構造物を表示します。



[連携する PhotoManager データの選択]ボタン又は、メニューの[写真連携]−[連携する PhotoManager データの選択]をクリックします。

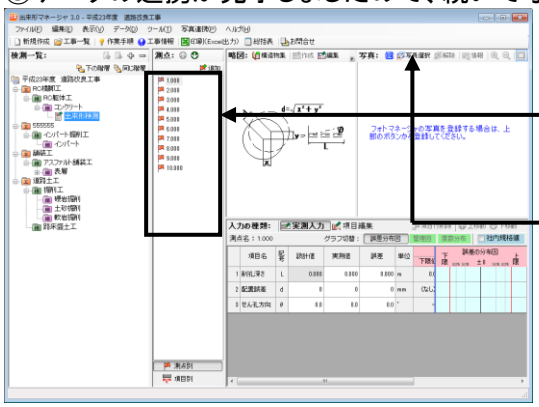
②PhotoManager の[メニュー(工事の選択)]ダイアログが表示されます。



1. 連携する PhotoManager データを選択します。

2. [開く]ボタンをクリックし、データを連携させます。

③データの連携が完了しましたので、続いて写真との連携を行います。



1. 連携する測点を選びます。

2. メニューの[写真連携]-[連携する写真ファイルの選択]又は、[写真選択]ボタンをクリックします。

④[連携する写真ファイルの選択]ダイアログが表示されます。

1. ツリーから連携する写真が入っているフォルダを選択し、写真を選択します。
■この連携方法では、出来形管理写真の細別フォルダ以外からも写真を選択できます。

2. [現在の測点と連携]ボタンをクリックします。

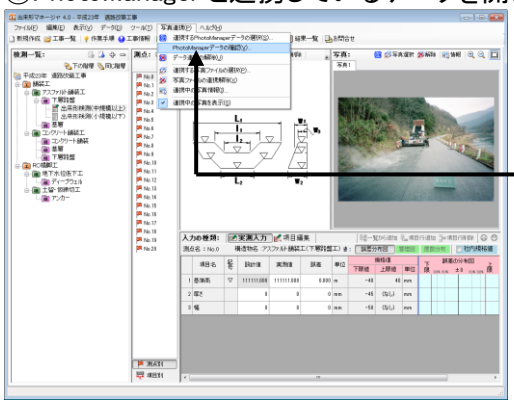
⑤PhotoManager の写真と連携されます。

PhotoManager の写真と連携され、写真が表示されます。

連携の確認

連携中のデータの確認

①PhotoManager と連携しているデータを開きます。



メニューの[写真連携]-[PhotoManager データの確認]をクリックします。

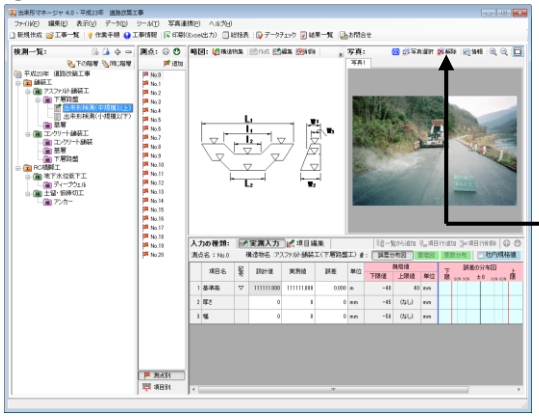
②[連携中の PhotoManager データ]ダイアログが表示されます。

左のツリーで選択されているフォルダ内の写真が表示されます。

確認後、[閉じる]ボタンをクリックします。

連携中の写真ファイル情報の確認

①連携中の写真の情報を確認する検測種別と測点を選択します。



メニューの[写真連携]-[連携中の写真情報]又は、[情報]ボタンをクリックします。

■表示されている写真をダブルクリックすることでも[写真情報]ダイアログを表示できます。

②[写真情報]ダイアログが表示されます。

PhotoManager で作成された写真の情報が表示されます。

連携の解除

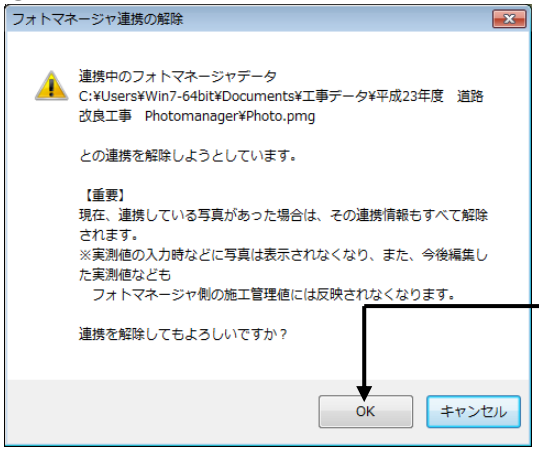
データ連携の解除

現在連携している PhotoManager のデータとの連携を解除します。

①PhotoManager と連携しているデータを開きます。

メニューの[写真連携]-[データ連携の解除]をクリックします。

②確認メッセージが表示されます。

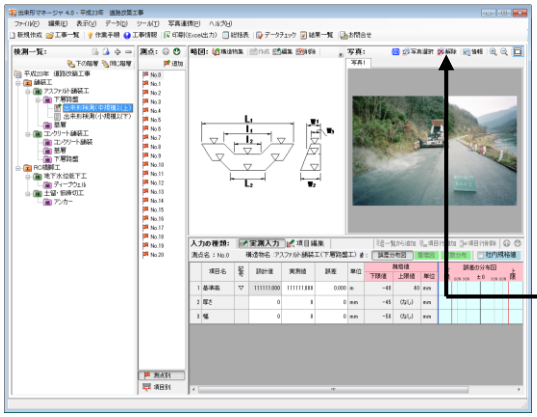


[OK]ボタンをクリックします。

■データの連携を解除した場合、連携中の写真も全て解除されます。

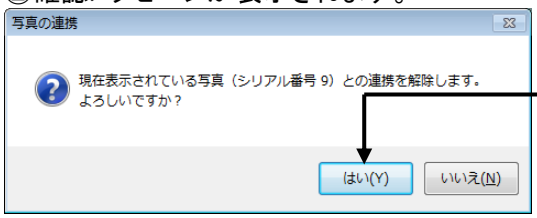
写真連携の解除

①写真の連携を解除する検測種別と測点を選択します。



メニューの[写真連携]-[写真ファイル連携の解除]又は、[解除]ボタンをクリックします。

②確認メッセージが表示されます。



[はい]ボタンをクリックします。

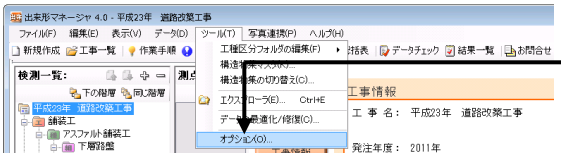
■個別の写真連携を解除しても、PhotoManager データとの連携は解除されません。

12. システムの設定を行う

[オプション]ダイアログから様々な出来形マネージャの設定を行っていただけます。

オプションダイアログの表示

①[オプション]ダイアログを表示します。

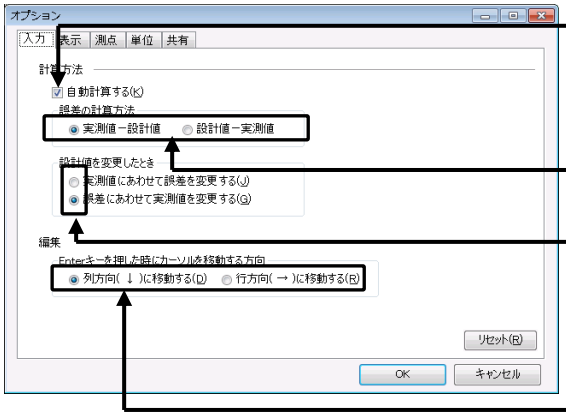


メニューの[ツール]－[オプション]をクリックします。

②タブを切り替えて設定を行い、設定が終了したら[OK]ボタンをクリックします。

入力に関する設定

[入力]タブをクリックし、設定を確認・変更します。



■自動計算をする場合は誤差と設計値を変更した場合の計算方法を選択します。

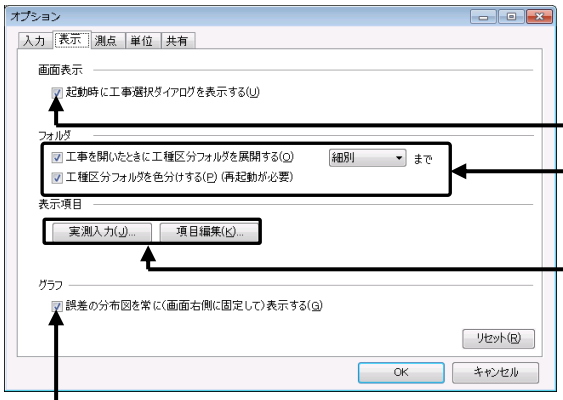
1. 誤差の計算方法を選択します。

2. 設計値を変更したときの計算方法を選択します。

3. Enterキーを押した時にカーソルを移動する方向を選択します。

表示に関する設定

[表示]タブをクリックし、設定の確認・修正を行います。



1. システムを起動時に[メニュー(工事選択)]ダイアログを表示する場合はチェックを入れます。

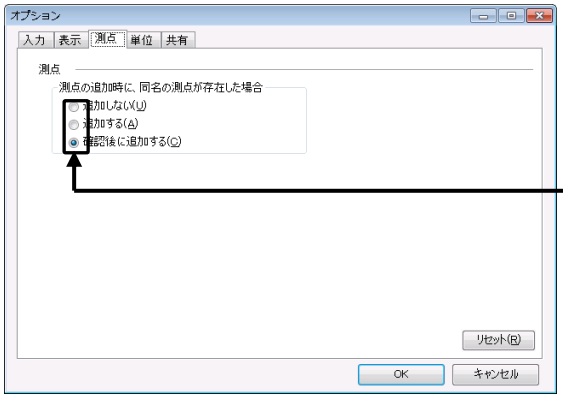
2. 工事を開いたときに工種区分フォルダの展開をする場合、工種区分フォルダを色分けする場合はチェックを入れます。

3. [実測入力]と[項目編集]で表示する項目を設定します。

4. 誤差の分布図を常に表示する場合はチェックを入れます。

測点に関する設定

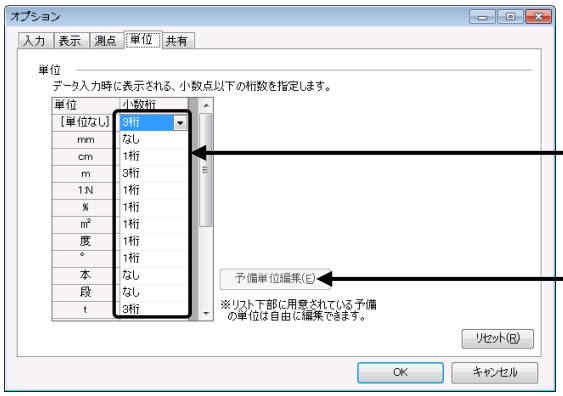
[測点]タブをクリックし、設定の確認・修正を行います。



測点の追加時に同名の測点が存在した場合の設定を行います。

単位に関する設定

[単位]タブをクリックし、設定の確認・修正を行います。

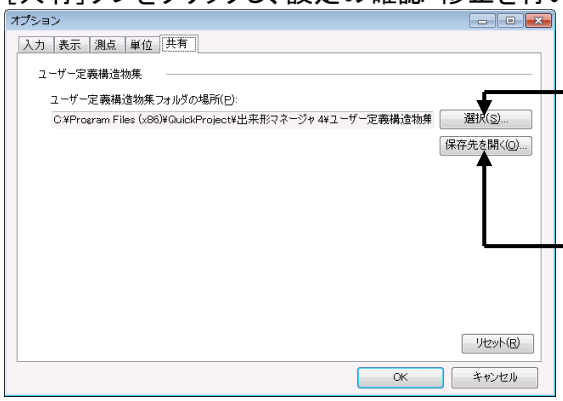


入力時に表示される、小数点以下の桁数を設定します。

■[予備単位編集]ボタンから、リスト下部の予備の単位を編集でき、独自の単位を使用できます。

共有に関する設定

[共有]タブをクリックし、設定の確認・修正を行います。



ユーザー定義構造物集フォルダの場所を変更する場合は[選択]ボタンをクリックします。

■[保存先を開く]ボタンをクリックすると、現在の保存先をエクスプローラーで開きます。

13. 出来形管理総括表

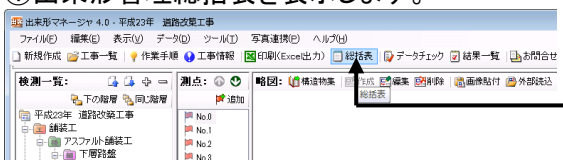
出来形管理総括表の入力データは、出来形管理書類作成で入力されたデータをそのまま使用することができます。

出来形管理総括表の入力

出来形管理総括表を印刷するためのデータを入力します。

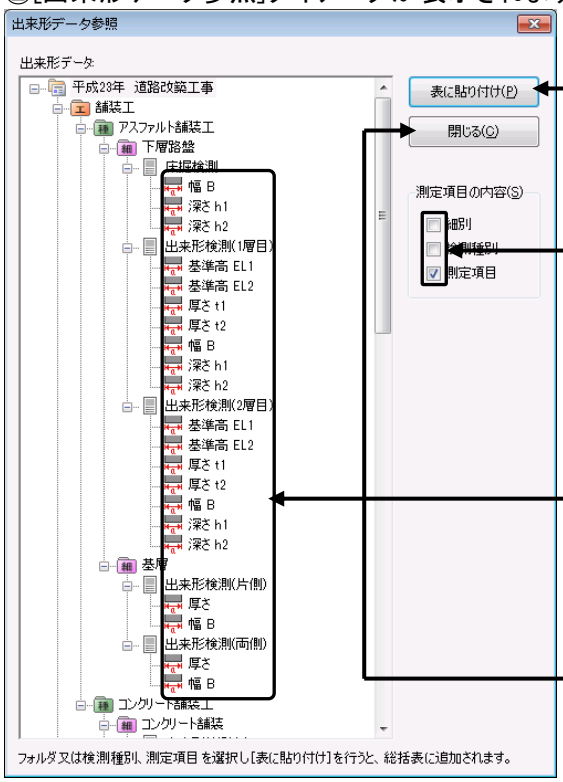
出来形管理総括表の表示

①出来形管理総括表を表示します。



メニューの[ファイル]－[総括表の出力]又は、[総括表]ボタンをクリックします。

②[出来形データ参照]ダイアログが表示されます。



1. 測定項目に貼り付ける内容にチェックをつけます。

2. 表に貼り付ける項目を選択し、[表に貼り付け]ボタンをクリックします。

■項目名をダブルクリックすることでも表に貼り付けることができます。

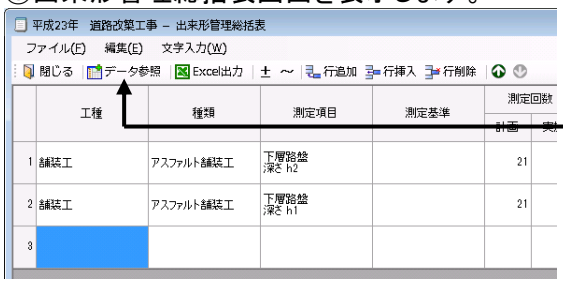
3. 1、2の操作を繰り返し、必要なデータを貼り付けます。

4. [閉じる]ボタンをクリックします。

③出来形管理総括表にデータが参照されます。

入力データを参照する

①出来形管理総括表画面を表示します。



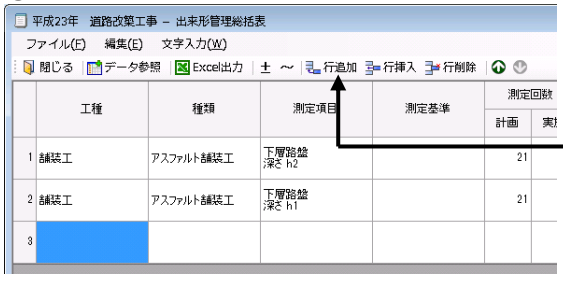
入力したいセルをクリックして選択した後、[データ参照]ボタンをクリックします。

②出来形データ参照ダイアログが表示されますので、必要項目を選択します。
前ページ参照。

出来形管理総括表の編集

行を追加する

①出来形管理総括表入力画面を表示します。

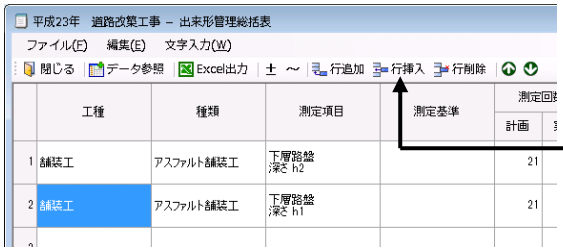


[行追加]ボタンをクリックします。

②最下行に行が追加されます。

行を挿入する

①出来形管理総括表入力画面を表示します。

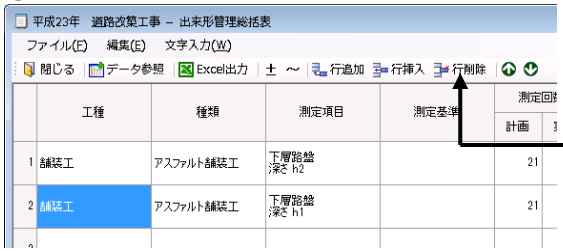


挿入したい行を選択し、メニューの[編集]－[行の挿入]又は[行挿入]ボタンをクリックします。

②選択した行と1つ前の行の間に新しい行が挿入されます。

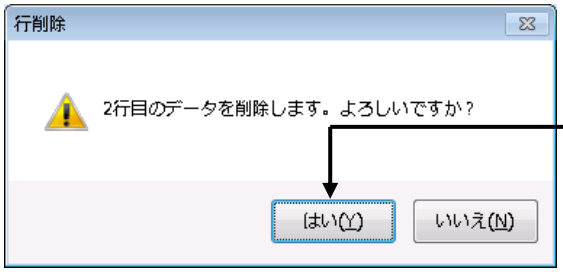
行を削除する

①出来形管理総括表入力画面を表示します。



削除したい行を選択し、メニューの[編集]－[行削除]又は[行削除]ボタンをクリックします。

②以下のメッセージが表示されます。

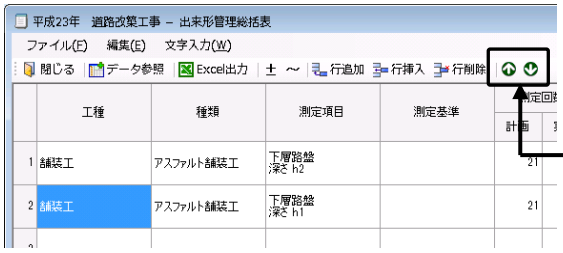


[はい]ボタンをクリックします。

③選択した行が削除されます。

データを移動する

出来形管理総括表入力画面を表示します。

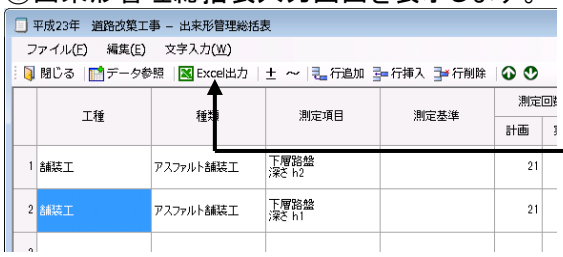


移動させる行を選択し、上に移動させる場合は、メニューの[編集]－[上に移動]又は ボタンをクリックします。下に移動させる場合は、メニューの[編集]－[下に移動]又は ボタンをクリックします。

印刷(Excel 出力)

出来形管理総括表を Excel へ出力します。

①出来形管理総括表入力画面を表示します。



メニューの[ファイル]－[Excelに出力]又は[Excel 出力]ボタンをクリックします。

②Excel が起動し、出力データが表示されます。[工事データ]フォルダ内の工事名の付いたフォルダ内に保存されています。
印刷が必要な場合は出力された Excel で印刷を行います。

出 来 形 管 理 総 括 表

工事名 平成21年度 道路改築工事 測定者

工種	種類	測定項目	測定基準	測定回数 計画	測定回数 実施	規格値 (mm)	測定値 最大値	測定値 最小値	測定値 平均値	摘要
		基層 床掘検測 幅 B		75	75		5500	0	380	
		基層 床掘検測 深さ h1		75	75		20	-20	0.7	
		基層 床掘検測 幅 B		75	75		5500	0	380	
		基層 床掘検測 深さ h1		75	75		20	-20	0.7	
		基層 床掘検測 深さ h2		75	75		20	-20	0.7	
		基層 床掘検測 深さ h3		75	75		10	-15	-0.3	
		基層 出来形検測(1層目)		76	76		0	0	0	
		基層 出来形検測(1層目)		76	76		0	0	0	

14. 構造物集を管理する

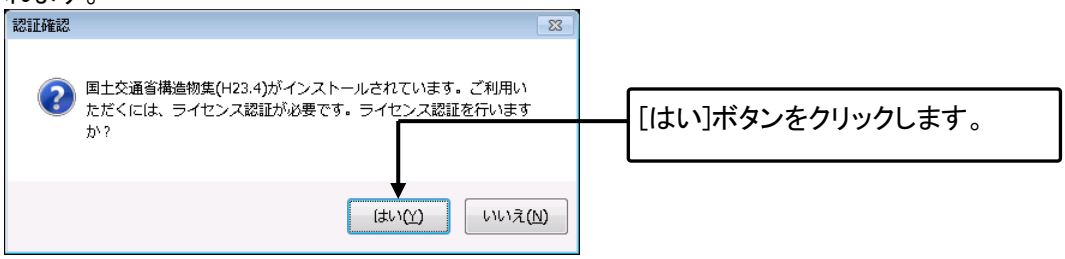
ご購入いただいた各県の構造物集の使用方法や、構造物集に構造物を追加・編集などを行う方法を解説します。

構造物集のライセンス認証

構造物集も本体と同様にライセンス認証手続きを行う必要があります。

①出来形マネージャを起動します。

②インストール済みで、ライセンス認証をされていない構造物集がある場合、確認のメッセージが表示されます。



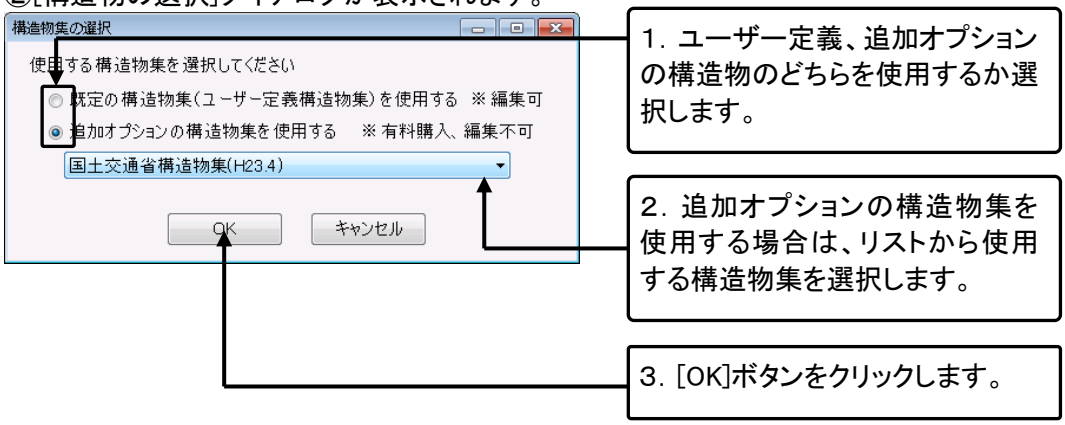
③ライセンス認証を行います。ライセンス認証の方法は本体附属のインストールガイドをご覧ください。

構造物集の切り替え

ご購入された構造物集ををご利用いただくには、ライセンス認証後に、構造物集の切り替えが必要となります。また追加オプションで購入された構造物集は編集ができませんので、編集を行う場合はユーザー定義構造物集に自動的に切り替わります。

①メニューの[ツール]-[構造物集の切り替え]をクリックします。

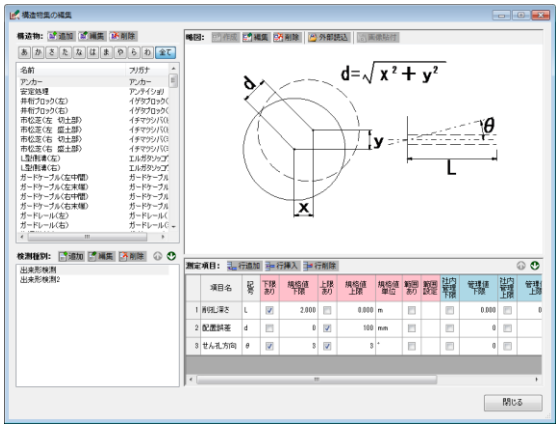
②[構造物の選択]ダイアログが表示されます。



構造物集の編集画面の表示

①メニューの[ツール]－[構造物集マスタ]をクリックします。

②構造物集の編集画面が表示されます。
構造物、検測種別、略図、測定項目の編集を行います。

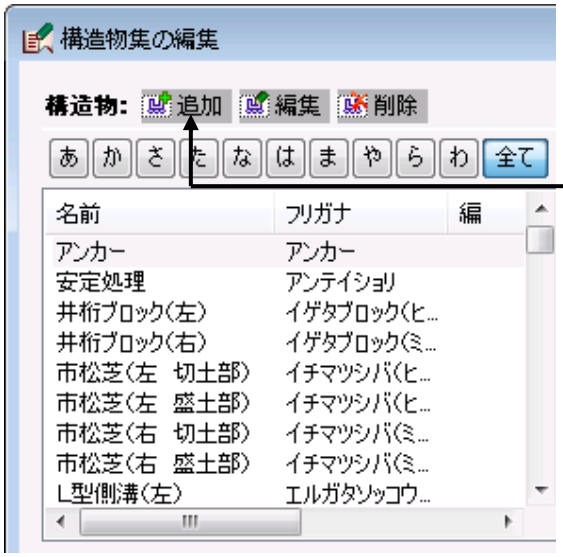


■追加オプションで購入された構造物集を選択されていた場合は、こちらのダイアログを表示すると自動的にユーザー定義構造物集に切り替わります。

構造物の管理

構造物の追加

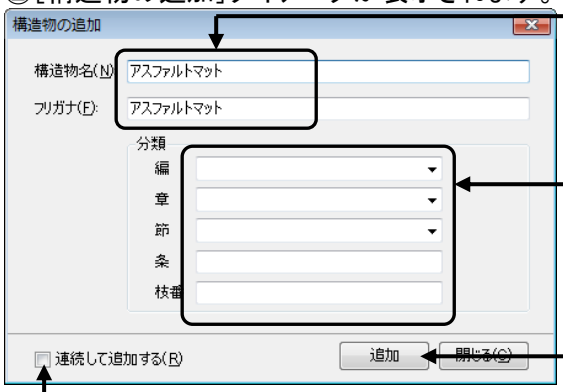
①構造物の編集画面を表示します。



[追加]ボタンをクリックします。

■任意の構造物を右クリックし、[構造物の追加]からでも、追加できます。

②[構造物の追加]ダイアログが表示されます。



1. 構造物名とフリガナを入力します。

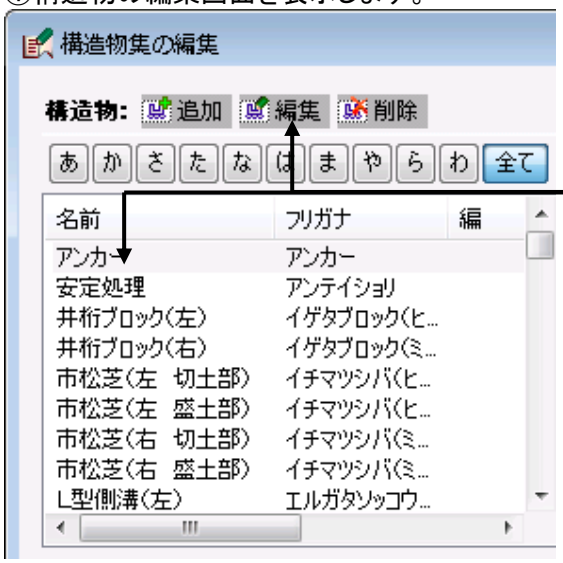
2. 分類がある場合は入力します。

3. [追加]ボタンをクリックします。

■連続して追加する場合は、「連続して追加する」のチェックボックスをクリックしてチェックをつけます。

構造物の編集

①構造物の編集画面を表示します。



編集を行う構造物を選択し、[編集]ボタンをクリックします。

■[編集]したい構造物を右クリックし、[構造物の編集]からでも、編集できます。

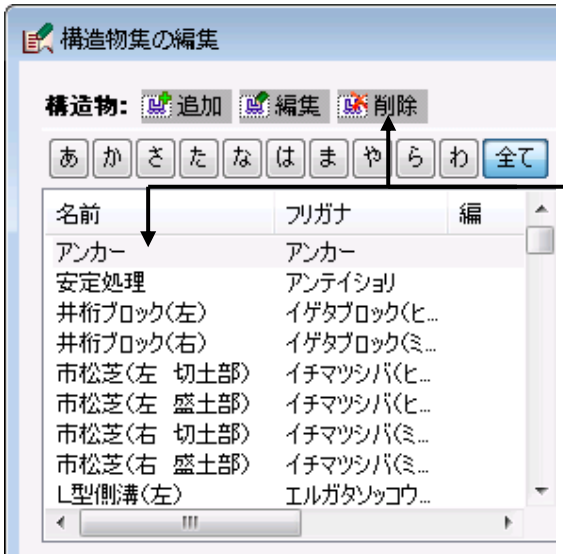
②[構造物の編集]ダイアログが表示されます。

1. 構造物を編集します。

2. [更新]ボタンをクリックします。

構造物の削除

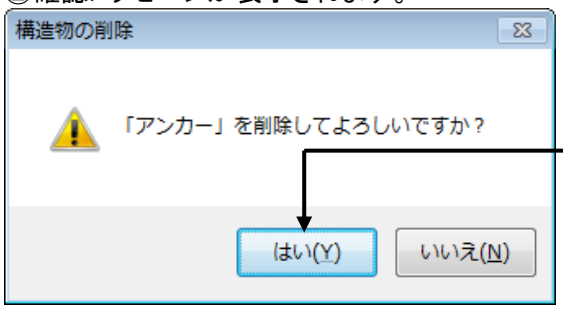
①構造物集の編集画面を表示します。



削除する構造物を選択し、[削除]ボタンをクリックします。

■[削除]したい構造物を右クリックし、[構造物の削除]でも削除できます。

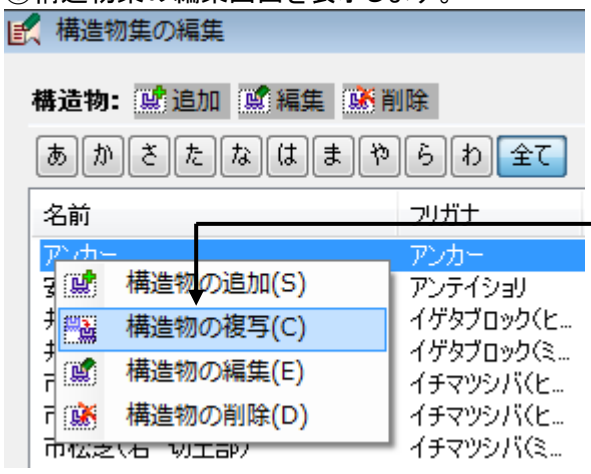
②確認メッセージが表示されます。



[はい]ボタンをクリックします。

構造物の複写

①構造物集の編集画面を表示します。



複写したい構造物を右クリックし、[構造物の複写]をクリックします。

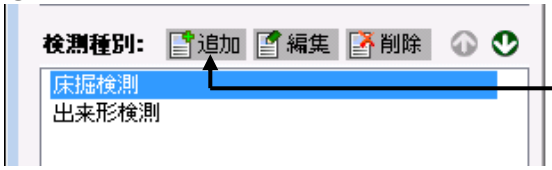
②リストの最終行に構造物が複写されます。

検測種別の管理

構造物ごとに検測種別を管理します。

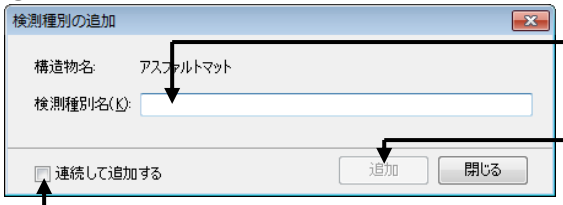
検測種別の追加

①構造物を選択し、検測種別のリストを確認します。



[追加]ボタンをクリックします。

②[検測種別の追加]ダイアログが表示されます。



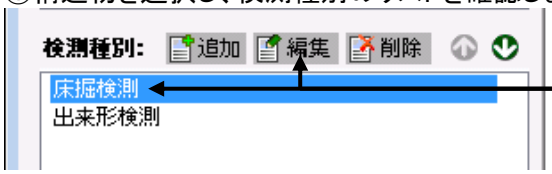
1. 検測種別名を入力します。

2. 入力したら、[追加]ボタンをクリックします。

■連続して追加する場合は、「連続して追加する」のチェックボックスをクリックしてチェックをつけます。

検測種別の編集

①構造物を選択し、検測種別のリストを確認します。



編集を行う検測種別を選択し、[編集]ボタンをクリックします。

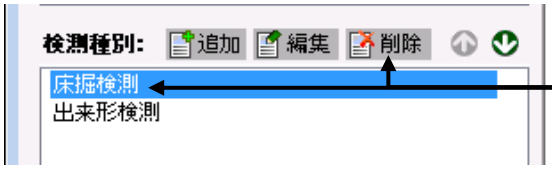
②[検測種別の編集]ダイアログが表示されます。

1. 検測種別名を編集します。

2. [更新]ボタンをクリックします。

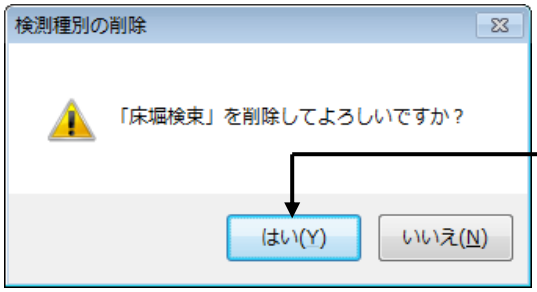
検測種別の削除

①構造物を選択し、検測種別のリストを確認します。



削除する検測種別を選択し、[削除]ボタンをクリックします。

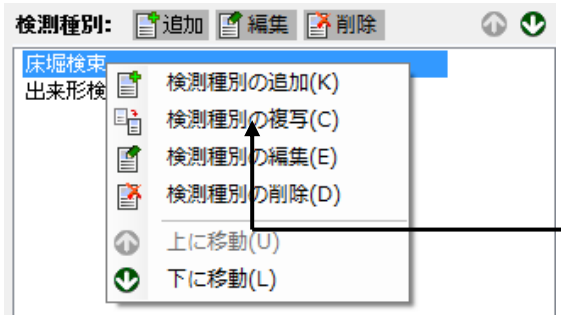
②確認メッセージが表示されます。



[はい]ボタンをクリックします。

検測種別の複写

①構造物を選択し、検測種別のリストを確認します。

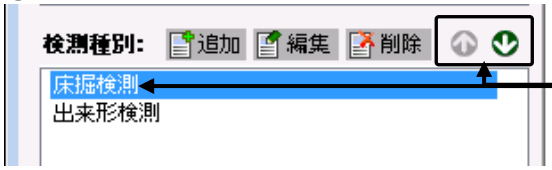


複写したい検測種別を右クリックし、[検測種別の複写]をクリックします。

②リストの最終行に検測種別が複写されます。

検測種別の並べ替え

①構造物を選択し、検測種別のリストを確認します。

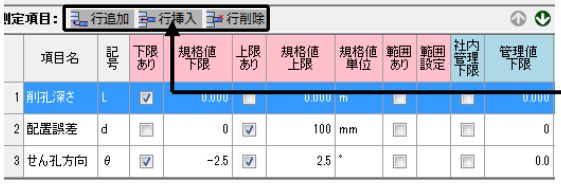


移動する検測種別を選択し、上に移動させる場合は、ボタンをクリックします。下に移動させる場合は、ボタンをクリックします。

測定項目の管理

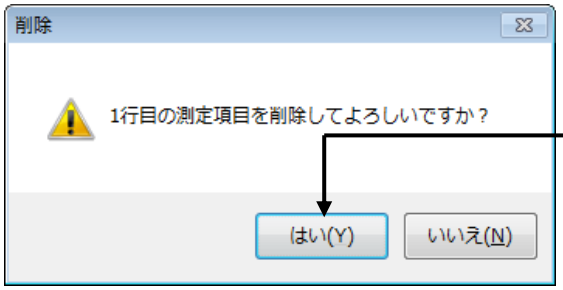
測定項目行の追加・挿入・削除

構造物と検測種別を選択し、測定項目を確認します。



行を選択し、作業を選択します。

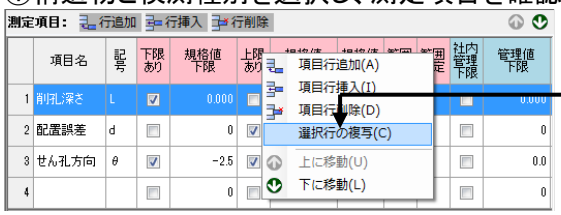
■削除の場合は、確認メッセージが表示されます。



[はい]ボタンをクリックします。

測定項目行の複写

①構造物と検測種別を選択し、測定項目を確認します。



行を右クリックし、[選択行の複写]をクリックします。

②測定項目の最後に行が複写されます。

測定項目行の並べ替え

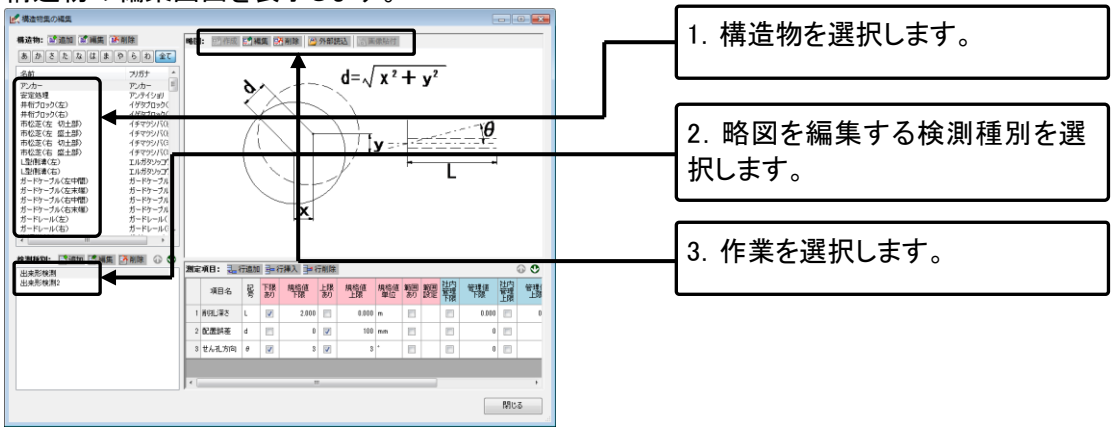
①構造物と検測種別を選択し、測定項目を確認します。

移動する行を選択し、上に移動させる場合は、ボタンをクリックします。下に移動させる場合は、ボタンをクリックします。

■行を右クリックし、[上に移動]・[下に移動]でも、並べ替えが可能です。

略図の作成、読み込み、編集、削除

構造物の編集画面を表示します。



■「作図システム」の操作方法については「作図システム」操作マニュアルを参照してください。

■各ボタンの機能は（→P35「8. 略図を追加する」）を参照してください。

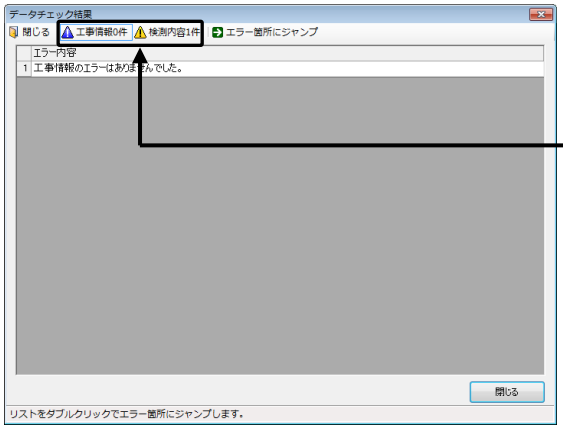
15. データをチェックする

作成したデータに不備がないかチェックを行います。

データチェック

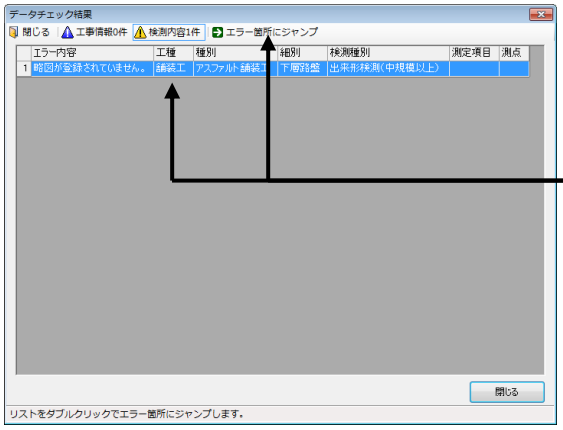
①メニューの[データ]－[データチェック]をクリックします。

②[データチェック結果]ダイアログが表示されます。



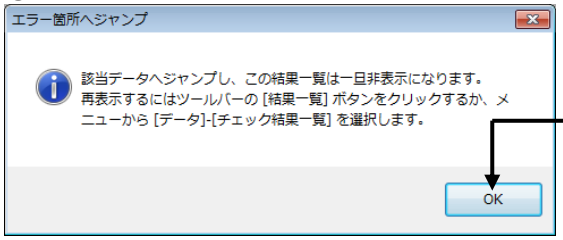
[工事情報]と[検測内容]を切り替えて、エラー内容を確認します。

③エラーの修正を行います。



修正したいエラーを選択し、[エラー箇所にジャンプ]ボタンをクリックします。

④確認メッセージが表示されます。



[OK]ボタンをクリックします。

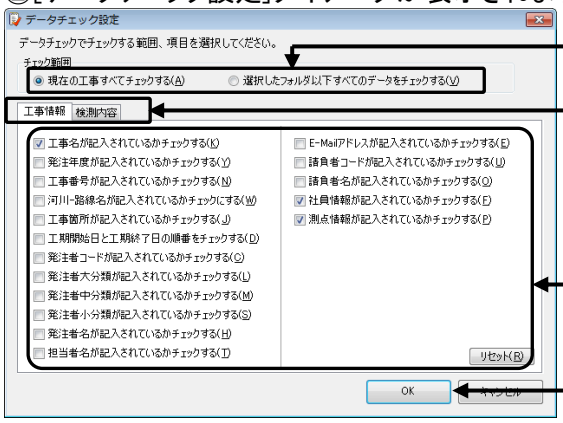
⑤修正箇所が表示されますので、修正を行います。

データチェック設定

データチェックの設定を行います。

①メニューの[データ]－[データチェック設定]をクリックします。

②[データチェック設定]ダイアログが表示されます。



1．データをチェックする範囲を選択します。

2．[工事情報]と[検測内容]を切り替えて、設定内容を確認します。

3．必要なデータチェックを選択します。

4．[OK]ボタンをクリックします。

ご注意

1. このソフトウェアの著作権は、株式会社ワイズにあります。
2. このソフトウェアおよびマニュアルは、本製品の使用許諾契約書のもとでのみ使用することができます。
3. このソフトウェアの仕様、およびマニュアルに記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。
4. 記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

システム購入後のトラブル、操作方法についてのお問い合わせは

サポートダイヤル:026-266-0792までお願いします。

お急ぎでない場合は、できるだけFAX(026-266-0845)またはe-mail(info@wise.co.jp)にてお問い合わせください。

またお問い合わせの際には、次のことをお知らせください。

①ご利用商品
②貴社名
③ご担当者様名
④お電話番号
⑤パソコンのシステム構成(使用OS、パソコンのメーカー名、機種名、印刷の不具合の場合はプリンタのメーカー名、機種名等)
⑥お問い合わせ内容(操作の手順、表示メッセージなどの詳しい状況)

QuickProject 出来形マネージャ 4.0 操作マニュアル

平成27年2月 改訂

株式会社ワイズ
〒380-0803
長野県長野市三輪1丁目8番14号
TEL.026-266-0710㈹
FAX.026-266-0845
e-mail:info@wise.co.jp
http://www.wise.co.jp